

阪大 —地域に生き世界に伸びる— NOW



OSAKA UNIVERSITY

22世紀に輝く

8

2012/No.133

www.osaka-u.ac.jp

トピックス

スロバキア共和国 イヴァン・ガシュパロヴィチ大統領が来学

【クローズアップ】

ヒッグスがなければ人類も存在しなかった

— 質量の起源にせまるLHC実験 —

2012 8月号
No. 133

目次

トピックス	2
クローズアップ	4
役員室だより	8
キャンパスニュース	15
ナウススペシャル	28
表彰等	30
人事	35
訃報	36
インフォメーション	38
職員インタビュー	41
阪大の組織 A to Z	42
海外拠点だより	44
交流協定大学	46
クラブ&サークル	47
トピックス	48

表紙写真：

最古の独和辞典
『享和袖珍字書』



明治5年から6年にかけて、日本では4種の独和辞典が立て続けに出版されました。『享和袖珍字書』（ふわしゅうちんじょ）はその中でも最も古いものです。「享」は「享漏生」（プロシヤ）の略字であり、時代を感じさせます。言語文化研究科には、故鈴木重貞名誉教授が蒐集された初期ドイツ学関係の辞書や学習書、翻訳書が多数保管されていますが、その中には、大学南校（東大の前身）のドイツ語教科書や、「イロハ」文字の学習にあわせてドイツ文字を学ぶ文字学習書など、歴史的に貴重なものが多数存在します。

表紙デザイン：クリエイティブユニット



スロバキア共和国 イヴァン・ガシュパロ

6月29日（金）、スロバキア共和国のイヴァン・ガシュパロヴィチ大統領が本学を訪問され、大阪大学会館講堂で講演会を開催しました。本講演会は、日本との学術面での交流も重要な目的の一つとして政府の公式実務訪問賓客として来日された大統領が、来日記念特別講演の開催場所として本学をお選びになったことにより実現したものです。



ヴィチ大統領が来学



平野俊夫総長による歓迎の挨拶に続き、演壇に上がったガシュパロヴィチ大統領は、「ヨーロッパにおけるスロバキア：責任ある社会、持続可能な成長」をテーマに講演されました。ガシュパロヴィチ大統領は講演の中で、美とバランスと自然を調和させる盆栽の中に、グローバル化が進む世界で各国が連帯して問題解決に取り組む姿を見だし、「地域に生き世界に伸びる」という本学のモットーとスロバキアの発展戦略とを重ね合わせ、共産主義体制から民主主義・市場経済体制への移行と欧州連合（EU）への統合プロセスにおけるスロバキアの成功経験や、スロバキアと日本の歴史的な関係、今後の戦略的な対話のポテンシャルなどについて、含蓄のあるお話をされました。

講演会には、本学学生や教職員に加え、関西のスロバキア協会会員や、本学と共にEU研究を推進するEUインスティテュート関西（EUIJ 関西）メンバー校の神戸大学および関西学院大学の学生・関係者を含め、300人を超す聴衆が集まり、盛会のうちに終了しました。終了時には、本学法学部国際公共政策学科1年生の川崎真菜さんより、大統領に本学のマスコット「ワ

ニ博士」のぬいぐるみが贈られました。

当日は、講演会に先立ち、平野総長や理事・副学長らは、大統領ご夫妻や同行する政府関係者や学術代表団を迎えて和やかな会談の機会をもちました。物事の本質を見極める研究・教育、および大学の国際化を推進することの重要性について語る平野総長に対し、ガシュパロヴィチ大統領は、大阪大学のこれまでの高度な学問的業績を高く評価し、今後のスロバキアの学界との交流や、スロバキアに関する理解の促進に向けての強い期待を表明されました。

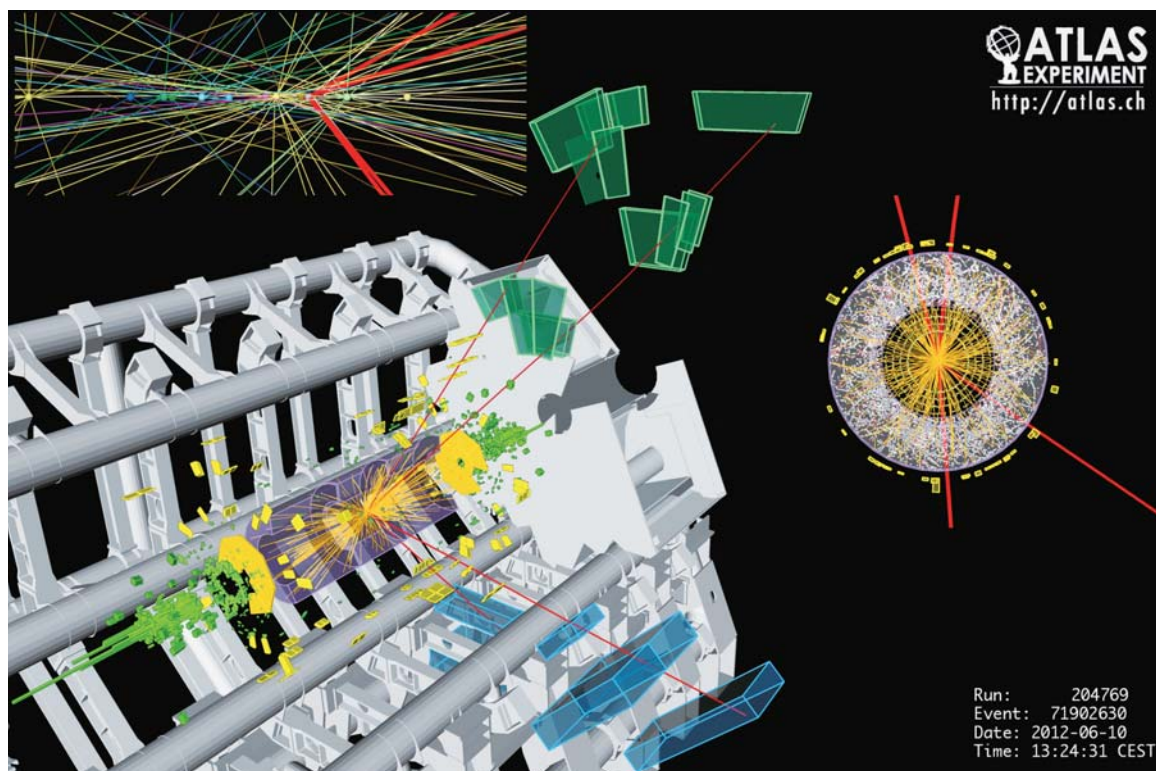
また、今回の大統領の来日に随行したスロバキア科学アカデミーや主要大学幹部で構成された学術代表団は、本講演会終了後、星野俊也国際公共政策研究科長兼総長補佐や関係部局長らとワーキングランチを行い、本学とスロバキア学界との将来の交流に向けた情報交換を行いました。

（国際公共政策研究科）

ヒッグスがなければ人類も存在しなかった ～質量の起源にせまる LHC 実験～

理学研究科物理学専攻 准教授 花垣 和 則

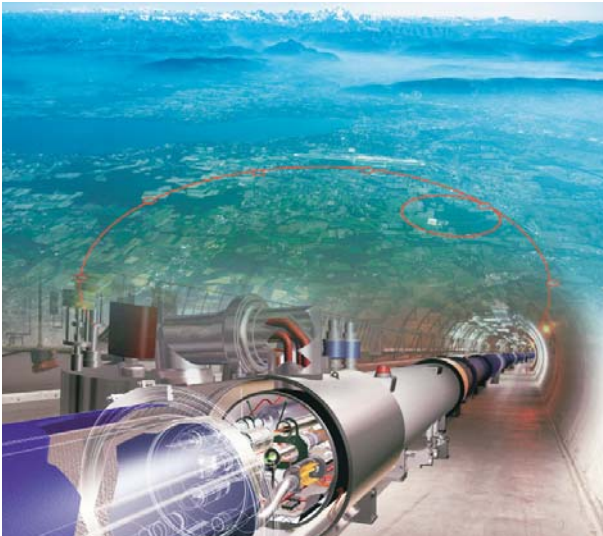
最近、新聞紙上などで「ヒッグス粒子発見か？」というニュースを目にした方が多いかもしれません。ジュネーブ近郊、スイスとフランス国境にまたがる欧州原子核研究機構（CERN）にて推進されている LHC 加速器を使った実験で2つの実験グループが、7月4日（水）に素粒子の質量の起源と目される粒子らしきものを発見したと発表しました。その実験グループの一つ ATLAS グループには大阪大学理学研究科の山中卓教授のグループ（以下、「大阪大学グループ」という。）をはじめ、日本から16の研究機関が参加しています。ここでは、質量の起源と考えられているヒッグス粒子探索の現状と、大阪大学グループの取り組みをお伝えします。



©CERN

LHC 加速器は、周長 27km という途方もなく大きな加速器であり、光速近くにまで加速した陽子同士を衝突させることで、宇宙が誕生してから 10^{-11} 秒後という超初期宇宙を再現することができます。これについては様々な研究がなされていますが、その中でも目玉は、全ての素粒子に質量を与える源と考えられているヒッグス粒子の探索です。ヒッグス粒子は、現代の素粒子物理学の理論体系の枠組みで予言されているが、唯一発見されていない粒子で、ヒッグス粒子の性質によって今後の素粒子物理学の発展方向が定まる可能性があるため、素粒子物理学上の最重要テーマの一つだと考えられています。

そしてもう一つ、忘れてはならないのが、素粒子に質量がなければ、我々自身も存在しなかったという事実です。私たち生物の大部分は水分子から構成されています。水分子は水素と酸素から構成されていますが、どちらの原子も、陽子や中性子からなる原子核の周りを電子がぐるぐる回っています。その電子の軌道半径が電子の質量に反比例しているため、もし電子に質量がないと軌道半径が無限大、すなわち原子核と電子との束縛状態＝原子が形成されないのです。ですから、電子が質量を持つということ、すなわち質量の起源は、我々人類の存在にかかわる重要な謎なのです。



©CERN

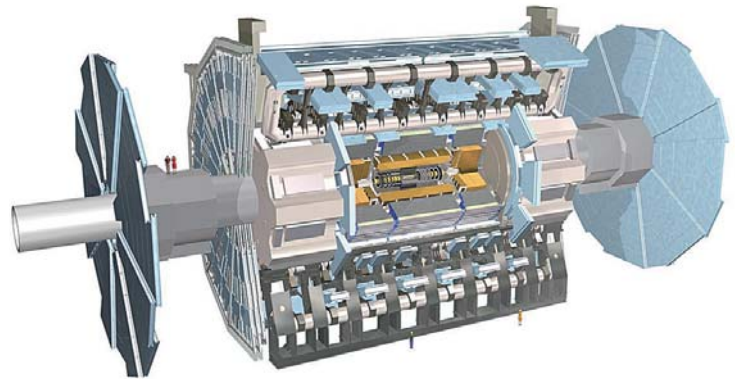
CERN 近郊の航空写真。背景にアルプスの山々とレマン湖が写っている。LHC 加速器は地下 100m 程度のトンネルの中に設置されている。

宇宙の形成に大きな影響を与えた質量の起源を探るべく、ATLAS グループともう一つの実験グループが LHC を使ってヒッグス粒子探索を行っています。双方ともに 3,000 人を超える国際共同実験者からなる超大型科学プロジェクトです。その中であって大阪大学グループでは、電子などの荷電粒子の飛跡を数 $10 \mu\text{m}$ の精度で測定するためのシリコン半導体飛跡検出器 (SCT) の運転と性能維持を担当しています。600 万を超える信号読み出しチャンネル数の検出器の性能を日夜モニターし、必要があれば調整するという地道な作業を続けています。各種検出器グループの絶え間ない努力があってこそ初めて、ヒッグス粒子など興味深い物理解析を行うことができます。



©CERN

シリコン半導体飛跡検出器 (SCT) 組み立て作業の様子。



©CERN

陽子陽子衝突地点に設置されている ATLAS グループの検出器。高さ約 23m、長さ約 45m、重さ約 8000 トンの巨大な検出器。巨大ではありながら、微細な高精度な検出器の複合体で、粒子の位置を数 $10 \mu\text{m}$ から数 $100 \mu\text{m}$ の精度で測定できる。

ところで、LHC のような大型プロジェクトは、非常に長い時間をかけて準備されます。LHC の場合、計画立案から実に 20 年もの歳月をかけてようやくヒッグス探索の結果を発表できるようになったのです。そのため、今は「ヒッグス粒子発見か？」と盛り上がっていますが、これから先実験を続けていくためには、検出器の改良、あるいは交換するための準備を進めていかなければなりません。例えば、陽子陽子衝突地点近くに設置されている SCT は、より高性能の新型検出器に交換しないと 10 年後には実験を続けられなくなってしまいます。そこで、大阪大学グループでは、修士課程の学生はアップグレード用新型 SCT の開発を行っています。実験として将来への大切な投資であると同時に、実験遂行中のプロジェクトでは経験することのできない、検出器に対する知識を育むための取り組みです。

一方、博士課程の学生とポスドクは実験現場である CERN に常駐して、SCT の運転作業、そしてヒッグス粒子探索のための解析を現地研究者と共に行っています。ヒッグス粒子は生成された直後に別の粒子（正確には粒子と反粒子のペア）に崩壊しますので、崩壊後の粒子の種類、運動量などからヒッグス粒子生成の痕跡を探します。また、ヒッグス粒子は特定の粒子反粒子ペアに崩壊するのではなく、何種類かの崩壊過程が存在します。発見に有利な崩壊過程、ヒッグスの性質を測るために不可欠な崩壊過程等々があり、大阪大学グループでは、ヒッグス粒子が 2 つの W という粒子に崩壊する過程、そして 2 つのボトムクォークという粒子に崩壊する過程を用いて、ヒッグス粒子の発見を目指しています。



©CERN

ATLAS 実験コントロールルームで作業する研究者たち。

さて、では7月4日（水）に発表された内容とはいうと、私たち研究者は「ヒッグス粒子発見」とは発表していません。「ヒッグス粒子とおぼしき新粒子を発見した」と表現しています。というのは、これまでに存在が確認されていない粒子を発見したのはほぼ間違いないのですが、その粒子が、私たちが考えているヒッグス粒子かどうかは、まだ確証を得ていません。2つの光子への崩壊、2つのZ粒子への崩壊、そして2つのW粒子への崩壊において、統計的に有意な信号が得られているのですが、これらに加えて、2つのボトムクォークあるいは2つのタウ粒子への崩壊を観測することがヒッグス粒子である、と主張するためには重要です。研究者たちは、秋、そして冬の国際会議での発表を目指して、データ収集と解析を精力的に進めており、今まさにヒッグス粒子探索の山場となっています。また、もし発見した粒子がヒッグス粒子だと

特定できた場合は、ヒッグス粒子の性質をくまなく精査するという新しい段階に入ります。いずれにせよ、私たち研究者にとっては長らく待ち望んでいた大発見で、ヒッグス粒子研究という新しい時代の幕開けです。



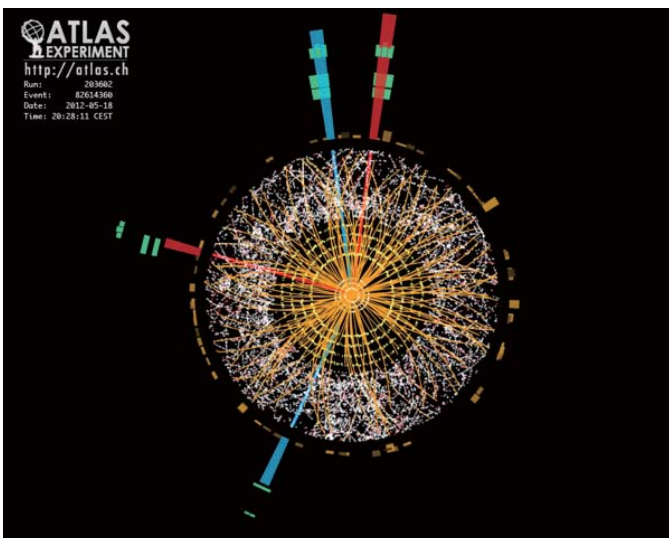
以上の研究活動の他に、大阪大学グループではアウトリーチ活動にも熱心に取り組んでいます。同じATLAS グループに属する名古屋大学、神戸大学、九州大学グループとともに年2回程度の割合で、これまで一般向け講演会や研究者とのおしゃべり会を行ってきました。ヒッグス粒子に限らず素粒子物理学全般に関する内容で、毎回100名から300名程度の参加者を集めています。7月21日（土）にも、新粒子発見という発表に対応して、豊中キャンパスで一般向け解説会を開催しました。講演会ではなく、複数の研究者によるパネルディスカッションを行い、一般参加者に参加してもらうという双方向性を意識した新しい企画を試みました。さらに、インターネットを利用した双方向コミュニケーションができないかと考え、ニコニコ動画さんの協力により解説会の様子を生中継で配信しました。たった2日前からの告知にもかかわらず、約25,000人の視聴者、そして20,000を超えるコメントをいただくことができました。アウトリーチのやり方として、新しい可能性を見た思いがしました。

さて、その解説会の評判ですが、講演ではなくパネルディスカッションを中心としたことで、普段の講演会よりも幾分難しく感じた参加者が多かったようです。しかし、その後のおしゃべり会も含め、等身大の研究者の姿に触れることができよかった、というアンケート回答が多く、企画・主催者としてはひとまず胸を撫で下ろしました。

今回に限らず、一般向けの講演会に参加してくださる方は非常に熱心で、活発な質問、そして励ましの言葉をたくさんいただき、主催者にとって非常にやり甲斐のある催しとなっています。研究成果の社会への発信の重要性云々という難しい議論は抜きにして、熱心な参加者との交流は、企画・運営をする私たちにとって本当に楽しい体験となっています。ヒッグス（らしき）粒子発見という、ある意味このようなお祭りは今回で終わりですが、アウトリーチ活動はこれからも地道に続けていくつもりです。

大阪大学グループ（ATLAS@OSAKA）の活動については、以下のURLで紹介しています。

<http://www.osksn2.hep.sci.osaka-u.ac.jp/atlas/index.php>



©CERN

ヒッグス粒子が2つのZ粒子へ、その後、電子陽電子対にそれぞれ崩壊したと考えられる事象候補。



大阪市立科学館プラネタリウムでの一般向け講演
(平成 22 年 6 月 19 日)



理学研究科で開催した一般向け解説会でのパネルディスカッション
(平成 24 年 7 月 21 日)



理学研究科で開催した一般向け解説会での研究者とのおしゃべり会
(平成 24 年 7 月 21 日)

今後の一般向け講演会

9 月 22 日 (土) 14:00 ～ 神戸大学 百年記念館

9 月 29 日 (土) 14:00 ～ 九州大学 箱崎キャンパス旧工学部本館第一会議室

※詳細は、以下の URL からご参照ください。

<http://www.hepl.phys.nagoya-u.ac.jp/atlas/outreach/Higgs2012/>

Profile

はながき かずのり

理学研究科 物理学専攻 准教授

ATLAS 実験に 2006 年より参加。大阪大学グループを率いてヒッグス粒子探索、トップクォーク生成確率の測定、シリコン飛跡検出器の運転に携わる。専門は素粒子物理学実験。

役員室だより

2012.8 Vol.49

学内措置による教育研究組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による教育研究組織の整備として、7月の役員会で次の事項が承認されました。

- 医学部附属病院「未来医療開発部」の設置（平成24年8月1日）
- 医学部附属病院中央診療施設「てんかんセンター」の設置（平成24年8月1日）

大学留保ポストの活用による若手教員・女性教員等の支援

平成23年3月の役員会で承認された大学留保ポストを活用した若手教員・女性教員等の支援について、7月5日に各部局長あて照会を行いました。

【支援内容】

- ①特に優秀な若手教員の教授昇任の支援について
 - ・ 本学の特に優秀な若手教員を任期なしの教授に昇任させる場合に、昇任前のポストとの差額分の大学留保人件費を配分する。
 - ・ 支援する人数は、当面年間3名程度とする。
- ②学外からの教授招聘に係る大学留保ポストの活用について
 - ・ 学外から本学の将来を担う人材を任期なしの教授に招聘する場合に、大学留保ポストを配分する。
 - ・ 支援するポスト数は、当面年間1～2程度とする。

③女性教員の採用・昇任（教授・准教授）に係る大学留保ポストの活用について

- ・ 女性の教授又は准教授を採用する場合に、大学留保ポストを配分する。また、女性教員を教授又は准教授に昇任させる場合に、昇任前のポストとの差額分の大学留保人件費を配分する。
- ・ 支援する人数は、採用及び昇任について、当面年間各1名程度とする。

【支援期間】

原則、平成25年4月1日から最長3年間

【今後のスケジュール】

10月31日（水） 各部局からの申請書提出期限
11月～12月 第1次審査及び第2次審査
12月末 配分部局を決定

大阪大学における女性教員の比率と採用比率

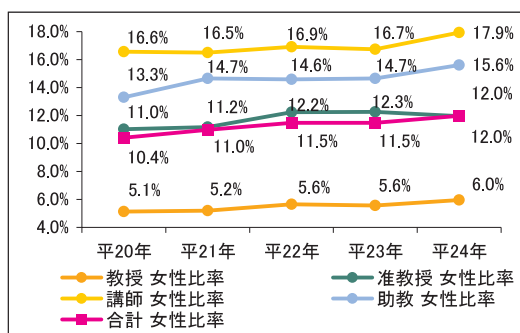
性別を問わず有能な人材がその能力を十分発揮でき活躍できるようにすることは、男女共同参画の根本的な条件であり、大阪大学における教育・研究の充実や大学全体の活性化にとって重要な課題となっています。

本学における女性教員の人数と比率は、グラフのとおり着実に伸びてきておりますが、平成24年5月1日現在における本学の女性教員の人数は374人で、全体に占める割合は12%となっております。国立大学協会は、女性教員比率を20%以上に引き上げることを目指すと目標を掲げており、これに比べてまだまだ低い数字となっています。

また、本学の女性教員採用比率について、本年4月に策定されました大阪大学男女共同参画推進基本計画（計画実

施期間：平成24年度から27年度）【以下「基本計画」】においては、「女性教員の採用比率について、基本計画期間中に採用比率20%を達成するよう努める」と数値目標を掲げております。ここ数年の女性教員採用比率を見ますと、表のとおり10%台において上下を繰り返している状況であり、女性教員の増加のためには、採用比率を一層高める必要があります。

本学においては、さらなる女性教員の増加を目指し、基本計画に基づく各種施策を通じて、目標の達成に向けて継続して取り組んでまいりたいと思いますので、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



【グラフ】 本学の年度別職名別女性教員比率 (平成20～24年度)

職名	教授			准教授			講師			助教			合計		
	男	女	女性比率	男	女	女性比率	男	女	女性比率	男	女	女性比率	男	女	女性比率
平成20年度	831	45	5.1%	695	86	11.0%	151	30	16.6%	906	139	13.3%	2583	300	10.4%
平成21年度	838	46	5.2%	731	92	11.2%	157	31	16.5%	903	155	14.7%	2629	324	11.0%
平成22年度	835	50	5.6%	710	99	12.2%	172	35	16.9%	931	159	14.6%	2648	343	11.5%
平成23年度	864	51	5.6%	744	104	12.3%	179	36	16.7%	967	166	14.7%	2754	357	11.5%
平成24年度	851	54	6.0%	743	101	12.0%	174	38	17.9%	978	181	15.6%	2746	374	12.0%

【表1】 本学における教員の年度別職名別男女在職状況 (平成20～24年度)

【表2】 本学の職種別採用者数及び女性教員採用比率 (平成18～23年度)

年度	教授			准教授			講師			助教			プロジェクト雇用			合計	女性教員採用比率
	男	女	女性採用比率	男	女	女性採用比率	男	女	女性採用比率	男	女	女性採用比率	男	女	女性採用比率		
平成18年度	20	0	0.0%	22	4	15.4%	11	0	0.0%	102	29	22.1%	86	12	12.2%	286	15.7%
平成19年度	20	3	13.0%	29	2	6.5%	10	3	23.1%	112	22	16.4%	123	17	12.1%	341	13.8%
平成20年度	29	1	3.3%	17	6	26.1%	9	0	0.0%	96	20	17.2%	111	33	22.9%	322	18.6%
平成21年度	21	2	8.7%	26	3	10.3%	7	5	41.7%	104	12	10.3%	95	26	21.5%	301	15.9%
平成22年度	14	0	0.0%	23	3	11.5%	10	3	23.1%	96	19	16.5%	117	32	21.5%	317	18.0%
平成23年度	15	1	6.3%	18	3	14.3%	14	3	17.6%	80	15	15.8%	114	23	16.8%	286	15.7%

平成23年度業務実績報告書

第2期中期目標期間の2年目である平成23年度の年度計画に係る業務実績報告書について、6月末に文部科学省国立大学法人評価委員会に提出し、8月23日に同委員会評価チームによるヒアリングが実施されます。

今後、評価結果については、10月下旬に公表予定となっています。

なお、同報告書については、公式ウェブページで公表しています (http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/gyomu_jisseki.html)。

また、同報告書における業務運営等に関する自己評価は、次のとおりです。

項 目	年度計画数	進捗状況(自己評価)			
		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
I(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標	15	0	15	0	0
1 組織運営の改善に関する目標	年度計画：17-1-1～18-3-1	12	0	12	0
2 事務等の効率化・合理化に関する目標	年度計画：19-1-1～19-2-2	3	0	3	0
I(2) 財務内容の改善に関する目標	9	3	6	0	0
1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標	年度計画：20-1-1～20-2-1	3	2	1	0
2 経費の抑制に関する目標	年度計画：21-1-1～22-1-3	4	1	3	0
3 資金の運用管理の改善に関する目標	年度計画：23-1-1～23-2-1	2	0	2	0
I(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	4	0	4	0	0
1 自己点検・評価に関する目標	年度計画：24-1-1～24-2-1	2	0	2	0
2 広報に関する目標	年度計画：25-1-1～25-1-2	2	0	2	0
I(4) その他業務運営に関する重要目標	20	3	17	0	0
1 キャンパス整備に関する目標	年度計画：26-1-1～26-4-2	7	3	4	0
2 リスク管理に関する目標	年度計画：27-1-1～27-4-2	7	0	7	0
3 法令遵守に関する目標	年度計画：28-1-1～28-2-1	3	0	3	0
4 情報基盤の整備・活用に関する目標	年度計画：29-1-1～29-2-2	3	0	3	0
合 計	48	6	42	0	0
【自己評価】Ⅳ 年度計画を上回って実施している Ⅲ 年度計画を十分に実施している					
Ⅱ 年度計画を十分に実施できていない Ⅰ 年度計画を実施していない					

平成25年度概算要求事項

平成25年度新規概算要求については、教育研究活動のさらなる充実・発展のための特別経費等を、7月4日に文部科学省に提出いたしました。

特別経費「プロジェクト分」としては、継続課題19件、新規課題7件を要求いたしました。なお、平成21年度以前に採択された事業のうち、全学の教育研究の改善・改革に資する取組として、2件の一般経費組替希望調書を併せて提出いたしました。

また、特別経費「全国共同利用・共同実施分」及び「教育関係共同実施分」については、平成24年度に引き続き、文部科学省が認定する共同利用・共同研究拠点や教育関係共同利用拠点における各種プロジェクト等を支援する経費を、「基盤的設備等整備」については、各法人が策定する「設備マスタープラン」に基づき、基盤的設備の計画的整備等を支援する経費として要求しています。

要求事項の一覧は次のとおりです。

平成25年度概算要求事項（大阪大学→文部科学省）

部 局 名	事 項 名	備 考
【特別経費】		
○プロジェクト分（事項名称における太斜字は継続分を示す。）		
①国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実		
グローバルコラボレーションセンター	国際協力・共生社会のための実践的教育改革事業—グローバルコラボレーションセンター—(9-7)	一般経費組替申請
基礎工学研究科	量子機能融合による未来型材料創出事業—スピトロニクス、オプトロニクス、モレトロニクス、クオントロニクスの融合による未来型機能材料創出事業—(5-5)	
歯学研究科・歯学部附属病院	「口の難病」から挑むライフ・イノベーション (6-3)	
環境イノベーションデザインセンター	想創技術社会実現のための「環境イノベーションデザイン」教育研究拠点形成事業 (4-2)	
生命機能研究科	生命動態イメージングによる最先端生命科学の推進—生命をシステム科学する— (5-2)	
全学教育推進機構	教育学習支援機能の組織化による教育の高度化 (6-1)	新規
太陽エネルギー化学研究センター	高度構造制御化学プロセス技術に基づいた太陽電池の戦略的研究開発 (5-1)	新規
サイバーメディアセンター	デジタル化による外国語教育の効率化—大学間連携による教材コンテンツの標準化— (5-1)	新規
②高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実		
コミュニケーションデザイン・センター	コミュニケーションデザイン教育事業の推進—コミュニケーションデザイン・センター—(11-9)	一般経費組替申請
学際融合教育研究センター	学際融合教育事業の推進—学際融合教育研究センターの構築— (4-4)	
知的財産センター	総合的知的財産教育事業の推進—知財センター (IPrism) の設置— (6-4)	
薬学研究科	先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発 (6-4)	
情報科学研究科 金融・保険教育研究センター	ソフトウェアイノベーション先導のための研究教育プログラムの開発 (4-3)	
③大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実		
産業科学研究所	附属研究所間アライアンスによるナノとマクロをつなぐ物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト(6-4)	
接合科学研究所	特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト (6-4)	
蛋白質研究所	生命分子素子から生命システムの全体像を解き明かす多次元国際研究 (6-4)	
レーザーエネルギー学研究センター	レーザー相対論核科学の開拓 (6-4)	
核物理研究センター	サブアトムック科学研究推進事業 (4-4)	
超高圧電子顕微鏡センター	超高圧電子顕微鏡連携ステーション (第Ⅱ期) (6-4)	
医学系研究科(保健学専攻)	高齢双生児レジストリーに基づく双生児研究基盤の構築—心豊かで健やかな超長寿社会を目指して—(4-3)	
接合科学研究所	広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—カップリング・インターンシップによる実践型グローバル人材育成—(5-1)	新規
ナノサイエンスデザイン教育研究センター	社会に開かれたものづくり理工学の国際人材育成モデル事業—国際的教育品質を保証するナノデザイン教育の実施—(5-1)	新規
基礎工学研究科	グローバルデザインテクノロジー人材育成のためのエンジニアリングサイエンス教育研究国際化推進事業(5-1)	新規
④産学連携機能の充実		
臨床医工学融合研究教育センター	医・工・情報連携によるハイブリッド医工学産学連携拠点整備事業—医情報連携センター構築にむけて—(4-3)	
薬学研究科	創薬プロセスの架け橋となるiPS細胞基盤技術構築プロジェクト (5-1)	新規
⑤設備サポートセンター整備		
科学教育機器リノベーションセンター	設備サポートセンター整備経費 (3-3)	
○全国共同利用・共同実施分		
産業科学研究所	物質・デバイス領域共同研究拠点によるネットワーク型共同研究事業 (6-4)	
社会経済研究所	行動経済学公募共同研究プロジェクト (6-4)	
微生物病研究所	微生物病共同研究拠点事業 (6-4)	
接合科学研究所	接合科学共同利用・共同研究拠点事業 (6-4)	
蛋白質研究所	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点事業 (6-4)	
核物理研究センター	サブアトムック科学研究拠点事業 (6-4)	
レーザーエネルギー学研究センター	超高強度レーザーが拓く高エネルギー密度科学の戦略的研究拠点事業 (6-4)	
○教育関係共同実施分		
日本語日本文化教育センター	日本語・日本文化教育研修共同利用拠点事業 (6-3)	

○基盤的設備等整備		
附 属 図 書 館	学術情報資料の全学共同利用推進事業（自動書庫導入）	
理 学 研 究 科	フーリエ変換質量分析システム	
理 学 研 究 科	高速原子間力顕微鏡	
理 学 研 究 科	超高周波電子スピン共鳴（ESR）年代測定装置	
理 学 研 究 科	固体・液体NMRシステム	
歯学研究科・歯学部附属病院	マクロ・ミクロイメージング解析システム	
薬 学 研 究 科	質量分析装置	
基 礎 工 学 研 究 科	高分解能角度分解光電子分光システム	
微 生 物 病 研 究 所	感染動物実験施設B棟空調システム	
産 業 科 学 研 究 所	高度ユビキタスセンシングネットワーク開発設備	
産 業 科 学 研 究 所	強力超短時間パルス放射線発生装置Ⅰ	
蛋 白 質 研 究 所	無染色細胞・組織三次元イメージング装置	
蛋 白 質 研 究 所	生体超分子構造解析装置	
接 合 科 学 研 究 所	走査型電子顕微鏡（3次元EBSD解析システム）	
核 物 理 研 究 セ ン タ ー	サイクロトロンカスケード装置	
核 物 理 研 究 セ ン タ ー	陽子・重陽子偏極標的冷凍システム	
レーザーエネルギー学研究センター	レーザー駆動高強度テラヘルツ波分析装置	
レーザーエネルギー学研究センター	激光エクサレーザー装置	
レーザーエネルギー学研究センター	激光XII号システム用コンデンサー	
レーザーエネルギー学研究センター	ターゲット製造装置	
超 高 圧 電 子 顕 微 鏡 セ ン タ ー	300万ボルト超高压電子顕微鏡	
医 学 部 附 属 病 院	滅菌医療材料保管搬送システム	
医 学 部 附 属 病 院	滅菌カート洗浄機	
歯 学 部 附 属 病 院	オーラルヘルスユニット（57台）	

【病院特別医療機械設備（長期借入金対象）】		
医 学 部 附 属 病 院	手術支援システム	

【施設整備事業】		
①国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実		
医 学 系 研 究 科（医 学 科）	（医）動物実験施設	
薬 学 研 究 科	（吹田）薬学1号館改修	重点
情 報 科 学 研 究 科	（吹田）情報系総合研究棟	重点
微 生 物 病 研 究 所	（吹田）感染動物実験施設	
産 業 科 学 研 究 所	（吹田）医療応用ナノデバイス総合研究棟	
社 会 経 済 研 究 所	（吹田）社研A棟改修	重点
核 物 理 研 究 セ ン タ ー	（吹田）核物理研本館改修	重点
サイバーメディアセンター	（吹田）サイバーメディアセンターⅠTコア棟・本館改修	重点
②国際化の推進機能の充実		
文 学 研 究 科	（豊中）文美学棟改修	重点
人 間 科 学 研 究 科	（吹田）大阪大学国際プラザ棟	
豊 中 地 区	（豊中）文理融合型総合研究拠点施設（Ⅱ期）	重点
③高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実		
医 学 系 研 究 科（保 健 学 科）	（医保）健康長寿総合研究棟	重点
④大学等の特性を生かした多様な教育研究機能の充実		
理 学 研 究 科	（理）理学E棟改修	
歯 学 研 究 科	（吹田）歯学部本館改修	重点
工 学 研 究 科	（吹田）研究棟改修（工学部）施設整備等事業（PFI事業13-8）	継続、PFI事業
接 合 科 学 研 究 所	（吹田）接合研実験研究棟改修	
ラジオアイソトープ総合センター	（豊中）RI総合センター実習棟・分館改修	
本 部 事 務 機 構	（豊中）学生交流棟施設整備事業（PFI事業13-9）	継続、PFI事業
本 部 事 務 機 構	（吹田）未来戦略機構棟・大学本部改修	重点
⑤学生支援や地域貢献など大学等の戦略を踏まえ必要な機能の充実		
附 属 図 書 館	（豊中）総合図書館書庫棟・本館等改修	重点
総 合 学 術 博 物 館	（豊中）総合学術博物館	
⑥附属病院機能の充実		
医 学 部 附 属 病 院	（医病）オンコロジーセンター棟	重点、長期借入金対象
医 学 部 附 属 病 院	（医病）基幹・環境整備（自家発電設備）	重点、長期借入金対象
⑦安全、安心の確保等		
本 部 事 務 機 構	（吹田他）ライフライン再生（屋外ガス設備等改修）	重点
本 部 事 務 機 構	（吹田他）ライフライン再生（屋外給排水設備等改修）	重点
本 部 事 務 機 構	（吹田他）ライフライン再生（配電設備等改修）	重点

文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」 （リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備）事業の採択

文部科学省の「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業に対する本学の提案が採択されました。本事業は「世界的研究拠点整備」、「専門分野強化」、「地域貢献・産学官連携強化」の3つの類型で募集され、本学は「世界的研究拠点整備」事業タイプへ応募し、全国の採択4件のうちの1件として採択されました。

本学はこれまで、大型教育研究プロジェクト支援室を設置し、教職（教員と事務職員）協働による研究支援を行うなど、リサーチ・アドミニストレーション活動の推進に力を注いできましたが、本事業への採択により、更なる活動の拡大、制度の強化・定着を図っていくものであります。

事業期間は今年度から平成26年度までで、8名のリサーチ・アドミニストレーター（以下、URA（※））を雇用する計画です。現在すでに入選に入っており、陣容が明らかになり次第、ご紹介させていただきます。

本事業を通して、URA活動の周知、人材の発掘・育成、

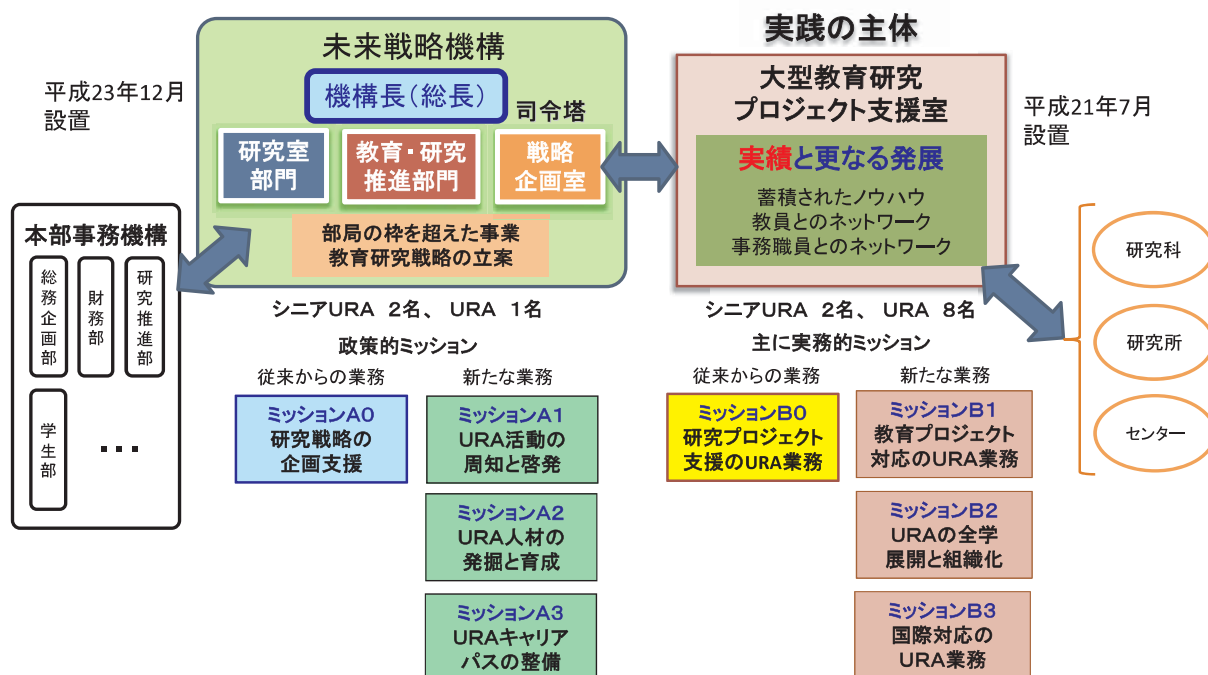
及びキャリアパスの整備等を行い、また、従来からの研究プロジェクト支援にとどまらず、教育プロジェクト及び研究のグローバル化への対応も視野に入れて支援業務を行っていくこととしております。

本事業により、大阪大学におけるURA制度の強化・定着を加速するとともに、他機関のモデルとなり、我が国のURA人材の育成にも貢献することを目指します。構成員の皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

（※）「URA」（University Research Administrator）

本事業におけるURAは、大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材を指します。

大阪大学におけるURAシステム整備事業の組織体制



海外での同窓会活動の最新動向

今回は、海外拠点が中心となって活動している各地の同窓会活動について各センター長から届いたご報告を基に簡単に紹介いたします。

サンフランシスコ教育研究センターのあるアメリカでは、北米同窓会に、現在約 500 名が会員登録（うち約 50 名が帰国留学生・社会人）しており、同センターが事務局となっております。NY 地区、ワシントン DC 地区、シカゴ地区、LA 地区、SF 地区があり、全体で 5 地区体制です。各地区では、担当理事・幹事を中心に、各地区同窓会・交流会・講演会等を企画・実施しています。全体としては年次総会・理事会・講演会・交流会等を実施するなど、カナダを含む北米全体を舞台に活発に活動しています。（関連記事：21 ページ）

グローニンゲン教育研究センターがある欧州では、2011 年 6 月にベルリンにおいて、第 1 回欧州同窓会が開催され、欧州同窓会が発足し、同センターが事務局となっております。現在、16 カ国約 230 名が会員登録しています。第 2 回総会は時期未定ながらロンドンで開催予定となっております、さらなる活動の活発化が期待されます。（関連記事：44 ページ）

バンコク教育研究センターのあるタイでは、タイ大阪大

学同窓会と咲耶会バンコク支部の二つの同窓会が活動しています。タイ大阪大学同窓会は、タイ人卒業生が中心となっており、会長も事務局長もタイ人が務めています。タイ人の会員は 278 名、日本人会員は約 40 名です。一方、咲耶会バンコク支部は日本人が主体で会員は約 60 名です。卒業生は、同窓会を通して人脈形成や情報の交換などを期待する一方、日本留学フェア等のボランティア活動を通して本学への貢献も行っています。

上海教育研究センターのある中国上海地区では、大阪大学上海同窓会と咲耶会上海支部の二つの同窓会が活動をしています。前者は、約 80 名の会員がおり、その半数以上は中国人卒業生です。後者の咲耶会上海支部は、日本人卒業生が多いことが特徴で、会員数は例年 80 名を下らず、いずれの同窓会も季節ごとに会食を兼ねた同窓会、帰任者や新任者、本学からの留学生の歓送迎会などを開いています。

上記のように、海外における同窓会は活発な活動を行っており、本学が設置する 4 海外拠点は各地域の同窓生・同窓会を今後も積極的にサポートするとともに、現地におけるより広範囲なネットワークの構築に努めていきたいと考えております。

GPA制度の導入及びダブル・ディグリーに関するガイドラインの検討

本学の今後の教育制度に関する事項として、GPA 制度の導入とダブル・ディグリーに関するガイドラインについての検討を行っています。

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度については、その導入により、学生が自身の履修状況をより客観的に把握できるとともに、教員がきめ細かな履修指導を行うことが可能となり、本学で実施する授業に係る単位の実質化や教育の高度な質保証の実現に寄与することが考えられます。

また、今後の教育の国際化への対応という観点からも、必要性があるものと考えております。

ダブル・ディグリーに関するガイドラインについては、高等教育のグローバル化により、学生の流動性が高まるとともに、外国の大学と日本の大学で学び、双方の大学から同時に学位を取得するダブル・ディグリー制度が広がってきた現状を踏まえ、本学が外国の大学と連携してより質の高い高等教育を提供できるよう、その実施に当たっての指標を定めるものです。

いずれの事項についても、今後、各学部・研究科等の意見を参考としながら、より具体的な検討を進めて行く予定です。

大学公式ウェブリニューアル

大阪大学の公式ウェブページを大幅にリニューアルしました。今回のリニューアルの目的としては、大阪大学未来戦略の策定を強く意識付け、今後ウェブを積極的に広報に利用することを鮮明にアピールすることが挙げられます。そのために次の2点を中心に据えてリニューアルを行いました。

1. 全てのページのデザインイメージの刷新

知的で最先端のイメージを与えるデザインを採用するとともに、トップページを2カラムから3カラムへと拡張することで、情報の掲載量を増やし、さらに可読性の改善を試みました。これにより、本学の最新研究リリースをトップページにも掲載し、本学のアクティビティの高さをアピールします。また、トップページ上部のイメージ内に検索窓を配置し、キーワード検索へ訪問者を誘導します。

2. 検索機能の拡充によるユーザビリティの確保と訴求力の向上

本学のウェブページは大量のページによって構成されており、階層をたどるより、検索窓にキーワードを入力して目的の情報にたどり着く訪問者が非常に多くなっています。そこで、検索窓をGoogleの検索ページのようにトップページの中心に据えることでコンテンツへの到達性・ユーザビリティを改善します。また、osaka-u.ac.jpドメインの網羅的な検索だけではなく、特定のキーワードを入力した際に特別なページを表示したり、研究者総覧の検索結果を同時に表示することで、本学の得意分野や受験生向け情報、研究者情報を積極的にアピール可能なものとなりました。

今後ともより良いウェブページの実現を目指し、皆様からのご意見も歓迎しますので、広報課へお知らせいただければ幸いです。



トップページデザイン

ALEC講演会 「法曹を目指す若い諸君に期待するもの」を開催

5月2日(水)、高等司法研究科では吉野孝義大阪地方裁判所長をお招きし、「法曹を目指す若い諸君に期待するもの」と題して、ALEC 講演会を実施しました。裁判官に求められる資質や優れた実務家像について、具体的な事例を交えながらお話いただき、事件を裁断し解決するためには、法律の知識だけではなく、たとえば自然科学の素養も必要となる場面がある、と示唆された点は印象深いものでした。「地元の」裁判所長をお招きすることは本研究科としても初めてのことでしたが、参加者は110名を超え、活気にあふれた講演会となりました。

(高等司法研究科)



歯学部附属病院にて看護フェアを開催

5月11日(金)、歯学部附属病院玄関待合ホールにて、看護の日になんで看護フェアを開催しました。内容は、「身体測定(身長・体重・血圧測定・視力検査)・BMI測定」と「治療食の紹介」を行い、実際に測定した値を記載したカードや糖尿食や高血圧食、高脂血症対応食の食事メニューのレシピとカロリーを示したパンフレットを配布し、看護相談、指導にも応じました。参加した患者さんからは、「日頃チェックできていない身体測定ができてよかった」「定期的にこのような企画をやってほしい」等の意見をいただきました。予定時間を過ぎてでも大勢の患者さんが詰め掛けるなど、盛況のうちに終了しました。

(歯学部附属病院)



「国家公務員総合職試験官庁訪問セミナー」を開催

5月17日(木)、法学研究科附属法政実務連携センター、法学研究科・高等司法研究科学学生支援室が主催となり、財務省から出向中の法学研究科・岡本登教授(法政実務連携センター長)を講師として「国家公務員総合職試験官庁訪問セミナー」を開催しました。公務員としてどのような人材が求められているか、大学生活の充実の必要性など、採用側の視点を踏まえたアドバイスがあり公務員志望の学生には大変興味深い内容でした。参加者からは「官庁訪問へのモチベーションが上がった」「公務員受験をしっかりと考えてみようというきっかけになった」などの感想が寄せられました。

(法学研究科・法学部、高等司法研究科)



公開講義「食品中の放射性物質に関するリスクについて」を開催

5月18日(金)、法学研究科附属法政実務連携センターが主催となり、内閣府食品安全委員会より北池隆勸告広報課長を講師としてお迎えし、公開講義「食品中の放射性物質に関するリスクについて」を開催しました。福島原発事故以降、放射能に係る食の安全に対する国民の関心と不安が高まる中、食品の安全性確保の仕組みや食品中の放射性物質による健康への影響について、わかりやすくご説明いただきました。参加者からは「漠然と不安だった事がはっきりした」「専門用語の定義がわかり、有意義だった」等の感想が寄せられました。

(法学研究科・法学部)



インド・アムリタ大学御一行が基礎工学研究科を表敬訪問

5月25日(金)、インドのAmrita University インターナショナルプログラムセンター長 Dr. Maneesha Ramesh (同ワイヤレスネットワーク & アプリケーションズセンター長)、副センター長 Ms. Karen Sneha Moawad が基礎工学研究科を訪れ、岡村康行研究科長、河原源太評議員、佐藤宏介副研究科長、田中正夫副研究科長、刃田博一副研究科長らとともに、今後の両大学間における学術／学生交流の発展に向けた意見交換を行いました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



障害者雇用促進に関する講演会を開催

5月29日(火)、多様な人材活用推進支援室は、コンベンションセンターにて、日本マイクロソフト株式会社技術統括室プログラムマネージャーの細田和也氏をお招きして「マイクロソフトのアクセシビリティへの取り組み」と題した「障害者雇用促進に関する講演会」を開催しました。

細田氏ご自身が全盲の障害者として勤務されており、通常使用されているパソコンでのアクセシビリティ機能を使った音声読み上げソフトの実演もあって、大変興味深くまた新しい発見の多い講演となりました。

約70名の参加者は、最後まで熱心に聴講し、有意義な講演会となりました。
※アクセシビリティ：障害者や高齢者が利用しやすいハード、ソフトの環境を整えること。

(多様な人材活用推進支援室)



平成24年度

薬学部・薬学研究科外国人留学生等歓迎パーティーを開催

5月29日(火)、薬学研究科セミナー室において、アジア、ヨーロッパ、アメリカ各国からの留学生とその家族、外国人研究員17名を含む教員、学生ら約70名が参加しました。

堤康央薬学研究科長の開会挨拶と小林資正教授の乾杯で始まり、自己紹介では、留学生が学業・研究に対する抱負を流暢な日本語で語り、盛大な拍手が送られました。終始和やかな歓談が行われた後、国際交流委員の櫻井文教准教授の挨拶で閉会となりました。毎年、留学生との親睦を深める良い機会となっています。

(薬学研究科・薬学部)



平成24年度

医学部御遺骨返還式を実施

6月1日(金)、医学部大会議室において、御遺骨返還式がしめやかに執り行われました。

毎年恒例のこの式典は、系統解剖のために篤志団体である大阪大学白菊会から献体をいただき、医学部学生が平成23年度中に解剖を行った方々の御遺骨を御遺族にお返しする行事で、今回で第91回を迎えました。

当日は、約100名の御遺族の出席のもと、医学部からは米田悦啓学部長をはじめ、解剖学教室の関係教員や八幡親明白菊会会長らが出席され、黙祷の後、米田学部長からの挨拶と44名分の御遺骨の返還、山下俊英教授からのお礼の言葉などがあり、滞りなく終了しました。

(医学系研究科・医学部)



御遺骨返還式の様子

歯学部附属病院にてふれあい看護体験者の受け入れ

6月1日(金)、生命の尊さや看護と介護の大切さを感じ取り、看護師の役割を少しでもわかっていただくことを目的に、将来看護師を目指している高校生2名のふれあい看護体験者を受け入れました。入院患者との談話や洗髪、清拭、経管流動食の準備、食事の配膳、病院食の試食を通して、体験者からは「患者と看護師の信頼関係が深くつながっているように思った」「みなさんのような看護師になりたい」「今日学び得たことをこれからに生かしていきたい」という感想がありました。

(歯学部附属病院)



公開講義「地域密着型金融と中小企業金融円滑化法について」を開催

6月1日(金)、法学研究科附属法政実務連携センター、高等司法研究科、知的財産センターが主催で財務省東海財務局より小西昭局長を講師として、公開講義「地域密着型金融と中小企業金融円滑化法について」を開催しました。日本の成長には地域の中小企業の活躍が欠かせないため、それを支援し発信していくことがいかに重要かを話されました。人口の減少と少子高齢化に伴う中小企業の荒廃や都会への人口流入が顕著になっている現在こそ、大局的に経済を捉えることに留まらず、地域に密着した活動にも目を向けるべきだということを再認識する機会となりました。

(法学研究科・法学部、高等司法研究科、知的財産センター)



「理学研究科・理学部ハラスメントに関する研修会」を実施

6月6日(水)および25日(月)に、理学研究科・理学部では、大阪大学ハラスメント相談室の座古勝、松原秀子両専門相談員を講師としてお招きし、「大阪大学でのアカデミックハラスメントの現状と問題点」と題した研修会を実施しました。本研修会は、教職員と学生を対象に平成12年度から毎年開催しているもので、今年はアカデミック・ハラスメントの定義、事例と背景、ハラスメントに関する相談を受けた時に心がけたいことなど、多岐の内容について講演が行われました。研修会には、両日で約240名が参加し、ハラスメントの防止に対する意識を高める機会となりました。

(理学研究科・理学部)



吹田市消防本部と合同消防訓練を実施

6月9日(土)および10日(日)に、安全衛生管理部は、吹田市消防本部と合同で消防訓練を実施しました。本訓練は、人間科学研究科本館を使用し、検索訓練やはしご車による救助訓練を行いました。検索訓練は、訓練当日まで隊員に建物レイアウトなどを知らせないブラインド形式で行い、実践さながらの緊張感とスピード感のある訓練となりました。また、はしご車による救助訓練では、実際に人を乗せて運搬が行われ、隊員による見事なオペレーションにより、最大40メートルまで上昇旋回し、無事降下しました。

今回の訓練は、大学の防火管理体制と緊急時の行動の検証に役立つとともに、地域の消防隊員に学内施設での訓練を体験してもらうことで、消防、大学双方にとって大変貴重な機会となりました。

(安全衛生管理部)



レスキュー隊員による検索訓練の様子

平成24年度 大阪大学主任研修を実施

6月11日(月)から13日(水)にかけて、新たに主任の職になった職員34名を対象に主任研修を実施しました。

尾山眞之助理事・副学長による開講式挨拶の後、専門講師により初日はOJTを行う上で必要となるスキルの習得を図るOJT研修、2日目以降は日常業務に潜む問題点を発見することから解決までのプロセスを学ぶ業務改善・問題解決研修が行われました。

受講生全員が積極的に課題に取り組み、活発な意見交換が行われ大変有意義な研修となりました。
(総務企画部人事課)



第17回 環境月間講演会を開催

6月12日(火)、工学部共通講義棟U3-211教室において第17回「環境月間講演会」を開催しました。今回は(株)ネオス 中央研究所創造技術部部长・大阪大学招へい准教授「ネオス(分離濃縮システム)共同研究講座」の加藤栄一先生を講師にお招きして、「環境汚染～PCB汚染と原発事故を通して除染技術を考える～」の演題で講演して頂きました。

講演では、ポリ塩化ビフェニル(PCB)が引き起こした汚染事例、そして今、わが国最大の関心事である原発事故による放射性物質汚染事例を通じて、環境汚染と現在開発されつつある具体的な除染技術についてわかりやすくご紹介いただきました。

多数の学生・教職員の参加により、活気にあふれた講演会となり、聴講生からの活発な質問にも丁寧にお答え頂きました。
(環境安全研究管理センター)



講演中の加藤栄一先生

外国人研究者向け科研費説明会を開催

6月12日(火)、本学における外国人研究者の科研費の応募件数の拡大と採択率の向上を図るため、英語による外国人研究者向け科研費説明会をコンベンションセンターにおいて開催し、約50名が参加しました。

説明会当日は、独立行政法人日本学術振興会より小山内優研究事業部長をお招きし、科研費の制度について詳細にご説明いただきました。

また、免疫学フロンティア研究センターのチョバン准教授に、ご自身の採択経験を交え、応募に向けたアドバイスを講演いただきました。

参加した外国人研究者からは、自分が応募する場合はどの種目が適しているか、もっと科研費に関する情報が欲しいなど、活発な質疑応答が交わされました。
(研究推進部研究推進課)



自身の体験談を語るチョバン准教授

ナノ学会第10回大会 「時空間にまたがるナノ領域のサイエンスとテクノロジー」を開催

6月14日(木)から16日(土)にかけて、超高圧電子顕微鏡センター保田英洋教授を実行委員長とするナノ学会第10回大会が、ナノサイエンスデザイン教育研究センターとの共催で大学会館にて開催されました。408名の参加のもと、基調・招待・一般口頭講演合計41件、ポスター133件が発表されました。シンポジウム「産学連携でナノ理工学をこれからの日本の未来科学技術・産業にいかにか活かすべきか」では、各界の4名の講演者がパネル討論で国際戦略下での人材育成など、産学連携の観点から議論されました。

(ナノサイエンスデザイン教育研究センター)



保田大会委員長挨拶と講演風景(右下)

ALEC講演会 「債権法改正ワークショップ——相殺と債権譲渡」を開催

6月16日(土)、法務省法制審議会民法(債権関係)部会委員である中井康之弁護士(堂島法律事務所(大阪弁護士会))と岡正晶弁護士(梶谷総合法律事務所(第一東京弁護士会))をお招きし、高等司法研究科主催「債権法改正ワークショップ——相殺と債権譲渡」を実施しました。今般の債権法改正作業は、わが国の取引ルールに大きな変革をもたらす可能性があります。こうした社会を支える一員となる高等司法研究科修了生に対し、最先端の重要問題について、司法界のトップランナーからご教示をいただきました。

(高等司法研究科)



司馬遼太郎記念学術講演会を開催

6月16日(土)、故司馬遼太郎さんの業績をしのび、日本人と日本人のあり方を考える「大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会」(大阪大学主催、産経新聞社/関西2100委員会共催)を大阪市北区のサンケイホールブリーゼで開催しました。

今回は作家・評論家の関川夏央氏と大阪大学社会経済研究所教授の大竹文雄氏が「近代日本の歩みと未来への構図」をテーマに講演と対談を行いました。当日は約800名もの方にご出席いただきました。

(広報・社学連携オフィス社学連携課)



平成24年度 ハラスメント相談員研修会を実施

6月18日(月)および22日(金)に、全学相談員及び部局相談員を対象としたハラスメント相談員研修会が、豊中および吹田地区において開催されました。研修会では、大和厚相談室長の挨拶の後、藤原敏道、八木健各副相談室長から相談体制の説明があり、周藤由美子、杉本志津佳、植木美恵子、松原秀子各専門相談員から、セクハラ、パワハラ等问题、また、ロールプレイでは、相談を受けるにあたっての対応や心構えについての講義が行われました。受講者は、講義を熱心に聞き入るとともに、活発な意見交換や質疑応答が行われ、意義深い研修会となりました。(参加者37名)

(総務企画部ハラスメント対策事務局)



平成24年度 大阪大学学生関係事務研修を実施

6月21日(木)および22日(金)に、平成24年度大阪大学学生関係事務研修が、コンベンションセンターで行われました。

本研修は、学生系関係事務に従事する職員を対象とし、「基本となる法令及び制度等を理解させるとともに、自己啓発、相互啓発の機会を与え、当該職務の円滑な遂行と学生サービスの向上を図る」ことを目的として実施されたものです。

今回は37名が参加し、教育の国際化・質保証など近年の教育改革の動向、障害学生支援、学生の安全衛生管理やメンタルヘルスなど幅広いテーマで講義が行われました。また、演習のグループワークでは、受講生が活発な意見交換を行い、意欲的に課題に取り組んでいました。

(学生部学務課)



学生によるボランティア活動報告会（第3回）を開催

6月23日(土)、大阪大学会館アセンブリーホールにて、学生支援ステーション、学生・キャリア支援課、大阪大学育友会の後援のもと、学生団体のボランティア支援室学生会主催によるボランティア活動報告会（第3回）が実施され、約40名の参加がありました。

これまでも東日本大震災のボランティア活動について有志の学生による報告会が開催されてきましたが、今回は環境サークルや障がい者支援サークルを含めて6つの団体に拡大し、各々の活動についての報告と活発な意見交換が行われました。今後も学生の自主的な活動の支援を継続していく予定です。

(学生支援ステーション／学生部学生・キャリア支援課)



質疑応答の様子

学生支援ステーション 「Station Café（第2回）」を開催

6月25日(月)および7月2日(月)に、学生支援ステーションでは、平成24年度第2回 Station Café「イメージであそぶ～ファンタジー・グループ～」を開催しました。最初の週はフィンガーペインティングで、手や指を使って童心に返った心持ちで絵を描き、2週目にはその作品を使ってコラージュを作成します。沈黙の中、「言葉のない世界」でやり取りがなされながら、いろいろな体験の詰まった作品が生み出されました。

(学生支援ステーション／学生部学生・キャリア支援課)



完成したフィンガーペインティング作品

名誉教授招待懇談会を開催

6月25日(月)、本年度の名誉教授招待懇談会が90名の名誉教授出席のもと銀杏会館で開催されました。

懇談会に先立ち開催された施設見学会では、平成23年3月に竣工した免疫学フロンティア研究センター研究棟の見学が行われました。

懇談会は、平野俊夫総長の挨拶に始まり、昨年秋の例会以降に逝去された名誉教授の追悼、新名誉教授の紹介、春の叙勲等受章者紹介に次いで、平野総長から本学の教育、研究、社会学連携事業や、大阪大学未来戦略等について近況報告が行われました。

続いて開催された懇親会では、各部署局長等も加わり、小谷恒之先生(教養部)の発声により乾杯が行われ、出席者は互いに近況を報告されるなど旧交を温めつつ、終始和やかな雰囲気のなか、閉会となりました。(総務企画部総務課)



大阪大学の近況報告を行う平野総長

普通救命講習会の実施

6月25日(月)、大阪市消防局および財団法人大阪市消防振興協会の協力を得て中之島センターで普通救命講習会を実施しました。本講習は、突然怪我や病気で倒れた方に対して行う心肺蘇生法(人工呼吸、心臓マッサージ)やAED(自動体外式除細動器)の使用方法を習得することを目的に実施したものです。当日は14名の参加があり、修了者には同消防局から修了証が交付されました。

(安全衛生管理部)



普通救命講習会の様子

第16回 APRU年次学長会議を開催

6月27日(水)から29日(金)にかけて、本学が加盟するAPRU (Association of Pacific Rim Universities: 環太平洋大学協会) の第16回年次学長会議がオレゴン大学(米国)にて開催され、本学から高橋明理事、国際交流課職員が出席しました。

今年の年次総会は、“Shaping Asia-Pacific Higher Education in the 21st Century” をメインテーマとし、35大学・約100名が参加しました。総会では、今後10年間を見据えてAPRUとして優先的に対応すべき諸課題および世界をリードするアジア太平洋ネットワーク構築の戦略的枠組みについて活発な意見交換が行われました。
(国際交流オフィス国際交流課)



平成24年 北米同窓会を開催

6月30日(土)、平成24年大阪大学北米同窓会理事会・総会・講演会(「大阪フレンズナイト」)・懇親会をサンフランシスコにて開催しました。地元サンフランシスコやワシントンDC・ニューヨーク等全米各地から、若手研究者・学生を含め、同窓生50名、全体で80名が参加し、賑やかに旧交を温めました。

英語での特別講演会では、高橋明理事・副学長から総長代理として大阪大学の原点である適塾からの歴史・現状と未来戦略について、次いで同窓生であるコロンビア大学 加藤 知朗教授から最先端の多臓器移植医療についてご講演いただき、その後、会場の参加者を交えた活発な質疑応答が行われました。

詳しくは、大阪大学サンフランシスコ教育研究センターのウェブページをご覧ください。

<http://osaka-u-sf.org/ja/events/>



(国際交流オフィス国際交流課)

平成24年度 バイオ関連多目的研究施設(OLABB)住民見学会を開催

6月30日(土)、バイオ関連多目的研究施設(OLABB)にて、近隣の古江台の方々を対象に当研究施設の見学会を開催し、17人の住民の方々が参加されました。研究の概要説明、研究室見学を行った後、熱心な質疑応答が行われました。これからも研究を頑張りたい、次回の見学会もぜひ開催してほしいとの意見をいただくなど、大変好評のうちに終わりました。

(研究推進部大型教育研究プロジェクト支援事務室、
バイオ関連多目的研究施設(OLABB))



安藤忠雄氏を招いて特別講義「夢かけて 走れ」を開催

7月3日(火)、建築家である安藤忠雄氏を講師として、「大阪大学特別講義」を実施しました。

受講者は別室視聴を含め550名を超え、メイン会場の大阪大学会館講堂には開場前から長蛇の列ができ、開講前に満席となりました。

講義は「夢かけて 走れ」と題して、安藤氏が建築に携わるなかで経験されたことや当時の心境を、時折ジョークを交えながらお話しされました。また、今後の日本の発展を担っていく学生たちに刺激となるようなメッセージに対して、学生たちは真剣な表情で耳を傾けていました。その後の質疑応答でも、安藤氏に対して学生たちから積極的に質問が行われ、特別講義は盛会のうちに終了しました。
(学生部学務課)



安藤忠雄氏の講義を聴講する学生たち

特別セミナー

「これからの競争的研究資金のファンディング・研究開発スキームとその対策に向けて：エネルギー、環境、材料、物質分野を中心に―大学のマネジメント改革の見える化との関連も含めて―」を開催

7月3日(火)、工学研究科の岡田メモリアルホールにおいて、特別セミナー「これからの競争的研究資金のファンディング・研究開発スキームとその対策に向けて：エネルギー、環境、材料、物質分野を中心に―大学のマネジメント改革の見える化との関連も含めて―」を開催し、60名の参加がありました。

本セミナーでは、基礎工学研究科 高尾正敏 特任教授をお招きし、現在の科学技術基本計画(第四期)の概要と今後の科学技術政策の基本方針、及び競争的資金制度の変革等について講演いただきました。また、競争的資金への応募に際して、それぞれの競争的資金の意図を深く汲み取ること、並びに申請書作成及びヒアリング審査の際に特に注意すべきことなど、具体的な指摘・アドバイス等もいただきました。

質疑応答の時間には、参加者と講演者との意見交換もなされ、大変意義深いセミナーとなりました。

(研究推進部、大型教育研究プロジェクト支援室)



七夕コンサートを開催

7月6日(金)、医学部附属病院外来棟エントランスホールにおいて、七夕コンサートが開催されました。第一部は微生物病研究所堀井俊宏教授のフルートと生命機能研究科吉場聡子特任研究員のピアノによるデュエットで、患者さんはうっとり聞き入っておられました。第二部の梅花女子大学チアリーディング部によるアクロバティックな演技には、大きな拍手が起こり、終了後には、患者さんから「元気をもらった」といった感動の声が寄せられました。

(医学部附属病院)



コンサートの様子

大阪大学感謝の集いを開催

7月9日(月)、基金室は、中之島センターにて、「大阪大学感謝の集い」を開催しました。未来基金に高額のご寄付をいただいた方を招待し、感謝の意を示すとともに、大学の近況を報告する催しです。当日は27名の方にご出席いただき、報告会、懇親会の2部構成で実施しました。

報告会では、平野俊夫総長、江口太郎理事・副学長、阿部顕三理事・副学長より、大阪大学の“歴史”“いま”“未来”、及び未来基金の活動状況についてプレゼンテーションが行われました。懇親会は、熊谷信昭元総長の乾杯で始まり、寄付者の皆様と総長・理事の懇親を深める良い機会となりました。

基金室では、寄付者の皆様のご意見を直接お伺いする場として、これからも感謝の集いを開催していく考えです。

(基金室)



平成24年度

大阪大学係長研修を実施

7月10日(火)から12日(木)にかけて、大阪大学係長研修が、新たに係長の職になった者27名(出向者含む)を対象に実施しました。

この研修では、係長に求められる役割を認識し、成果をあげる係長として必要なマネジメントスキルの習得を図り、仕事の管理、判断のプロセス、業務改善・目標管理、リスク管理等について、実際に起こりうる問題を取り上げ実践的に学ぶことができました。

研修では、受講生全員が意欲的に課題に取り組み、所定の課程を修了しました。

(総務企画部人事課)



外部資金獲得に向けた「科研費説明会」を開催

7月10日(火)から11日(水)にかけて、豊中および吹田キャンパスで、例年実施している科研費説明会を開催し、約170名の教職員が参加しました。

今年度は、日本学術振興会学術システム研究センターの専門研究員を経験された先生及び最先端・次世代研究開発支援プログラムに採択されている先生に、科研費制度、研究計画調書等を作成する上でのアドバイス、審査等について講演していただきました。

このほか、不正使用防止計画推進室から科研費の不正使用の防止についての説明を行い、不正使用防止に対する意識向上を図りました。

(研究推進部研究推進課)



講演を行う理学研究科 山中卓教授

平成24年度 大阪大学安全衛生講演会の開催

7月13日(金)、医学部銀杏会館において、平成24年度大阪大学安全衛生講演会を開催しました。本講演会は、全国安全週間(7月1～7日)にあわせて毎年開催しているものです。

今年度は、本学理学研究科・廣野哲朗准教授と名古屋大学災害対策室長・飛田潤教授をお招きして、「地震災害に備える」をテーマにご講演いただきました。

当日は、地震発生のメカニズムや名古屋大学における先進的な防災対策に関する取り組みについて具体的な説明があり、講演後の質疑応答では活発な意見交換が行われました。参加者は約90名でした。

(安全衛生管理部)



飛田潤教授・名古屋大学災害対策室長

在阪報道関係者と大阪大学との懇談会を開催

7月17日(火)、中之島センターにおいて、本学における教育研究上の成果や新たな取り組みなどについて情報発信するとともに、報道関係者との意見交換を目的とした「在阪報道関係者と大阪大学との懇談会」を開催しました。

懇談会には、本学からは平野俊夫総長をはじめ、各理事・副学長および監事等が、報道関係からは9社から23名の出席がありました。最初に平野総長から、本学の諸活動・近況について説明があった後、報道各社との意見交換が行われました。終了後の懇親会では、引き続き本学関係者と報道各社の方々の活発な情報交換が行われるなど、貴重な機会となりました。



意見交換の様子

(広報・社学連携オフィス広報課)

ハラスメント防止等に関する研修会を開催

7月17日(火)、ハラスメント防止等に関する研修会が、人権問題委員会とハラスメント相談室との共催で医学系研究科B講堂において開催されました。この研修会はハラスメント問題全般に関する理解を深め、教職員及び学生の問題意識の向上を図ることを目的としたものです。

当日は同研修会最多の140名を超える参加者があり、本学教職員等のハラスメント問題に関する関心の高まりが表れていました。

研修会は、藤原敏道アカハラ・パワハラ問題小委員会委員長(ハラスメント相談室副室長)の司会により、飯國洋二人権問題委員会委員長の挨拶の後、大学・企業でのハラスメント問題に詳しい井口博弁護士による「事例で考えるセクハラ・アカハラ・パワハラ防止対策～ハラスメントの被害者・加害者にならないために」と題した講演が行われ、参加した受講者は、実際に起こりうるハラスメントの事例やその防止策について最後まで熱心に聴講し、ハラスメント防止に対する意識を高めることができました。

(総務企画部総務課・ハラスメント対策事務室)



外国人留学生対象の防災教育

国際教育交流センターでは、日本語集中コースに参加中の留学生が日本滞在中に自らの安全を確保できるように、特に大震災に備えての基礎知識を体験的に英語で学べる機会を設けました。

今回この防災教育は、2日間に分け、初日（7月20日）はICホールにおいて講義形式により、地震や津波、その他の自然災害及びその対策について学びました。2日目（7月21日）は「津波・高潮ステーション（大阪市内）」と「人と未来防災センター（神戸市内）」を見学し、各自防災意識を深めることができました。今回の参加者は30名でした。また、秋学期も同様の体験型学習の防災教育を実施する予定です。お問い合わせはサポートオフィス・カストロ特任准教授(castro@isc.osaka-u.ac.jp)まで。（国際教育交流センター）



防災教育講義の様子

平成24年度 大阪大学OJT育成者研修を実施

7月20日(金)、コンベンションセンターにおいて、OJT育成者研修を実施しました。この研修は、部下育成において重要な役割を果たす主任・係長(相当職)の職員に、OJT(On the Job Training)を進めるうえで必要とされるコミュニケーション能力を修得させることが目的です。受講者は、OJT実践計画を立てるなど、目標達成のためのグループワークやロールプレイングに積極的に取り組み、有意義な研修となりました。

(総務企画部人事課)



演習風景

関西地区進路指導担当教諭対象大阪大学説明会を実施

7月24日(火)、大阪大学会館にて、約120名の関西地区高等学校の進路指導教諭にご参集いただき、大阪大学説明会を開催しました。

高校生にとっての情報の入手先の割合は、高校の先生からが圧倒的に高いとされていますが、必ずしも高校の先生方に本学の最先端の研究、教育内容・環境等、本学の概要・特徴が理解されていない現状もあることから、進路指導担当教諭対象とした説明会を開催したものです。

説明会では、平野俊夫総長による講演「大阪大学に集まる未来」、東島清理事・副学長による「大阪大学説明」に引き続き、入試課長による大阪大学入学者選抜の概要紹介という内容で行われました。閉会後には、出席した高校の先生方から熱心に質問が寄せられ、盛会のうちに終了しました。（学生部入試課）



大阪大学マネジメント研修～すぐに使える!情報発信力トレーニングプログラム～を実施

7月25日(水)および31日(火)に、大阪大学マネジメント研修～すぐに使える!情報発信力トレーニングプログラム～を実施しました。

この研修は、大型教育研究プロジェクト支援室の平井啓准教授、岩崎琢哉特任講師にご協力いただき、CSCD教育科目「メディア技法と表現リテラシー」を職員向けにアレンジしたものです。

当日は、少人数の対話型形式で進行し、情報発信の際、①対象がどのような人なのか、②相手にとっての利益は何なのか、を考えることの重要性を演習等を通じて分かりやすく解説していただきました。

アンケートも高評価が多く、密度の濃い非常に有益な4時間になったのではと思います。

PMTでは、今後も様々な企画を行っていきますので、是非、ご参加ください。（総務企画部総長秘書室プロジェクトマネジメント・チーム(PMT)）



熱心に演習に取り組む受講者

GLHSに指定されている10校での総長、理事・副学長による講演を実施 第1弾 大阪府立北野高等学校

7月26日(木)、大阪府立北野高等学校にて、大阪大学の魅力と学問や研究のおもしろさを伝えるべく、東島清理事・副学長が講演を行いました。

これは、7月11日(水)に締結した本学と大阪府教育委員会との連携協定及びGLHSの指定を受けている10校との覚書を受けて、実現したものです。

講演タイトルは「ヒッグス粒子の謎」。7月上旬に世界中で話題となったタイムリーな内容と、随所に「自ら学ぶことに意欲を持ち、課題を自分で見つけ解決できる人になってほしい」というメッセージが鏤められた“熱い”夏の講義となりました。

(総務企画部総長秘書室プロジェクトマネジメント・チーム (PMT))



北野高校六稜会館にて講演する東島理事・副学長

「科学研究費助成事業実務担当者向け説明会」に約80名が参加

7月27日(金)、吹田、豊中の2地区で科研費に係る事務手続きの実践的な内容についての説明会を昨年度に引き続き開催し、約80名の実務担当者が参加しました。

説明会では、研究推進課学術研究推進係から、平成23年度に新設された学術研究助成基金助成金(基金)、平成24年度から導入された一部基金、従来からの科学研究費補助金(補助金)について、制度の概要や手続き等について対比させて説明を行いました。

このほか、不正使用防止計画推進室から、科研費の不正使用防止について説明を行いました。

(研究推進部研究推進課)



大阪男声合唱団が第12回定期演奏会を開催

7月29日(日)、大阪大学男声合唱団OBで結成している「大阪男声合唱団」が定期演奏会を行いました。当日は、大阪外国語大学グリークラブOB合唱団の賛助出演のもと、清水脩作曲の組曲「月光とピエロ」の合同演奏を実現しました。大阪音楽大学の林誠先生に客演指揮をお願いし、70名を超えるメンバーで迫力のある演奏を実現し、満員の聴衆を魅了することができました。

(大阪男声合唱団)



平成24年度(第34回)基礎工学部公開講座「未来を拓く先端科学技術」を開催

8月1日(水)から3日(金)の3日間にわたり、基礎工学部公開講座「未来を拓く先端科学技術」が、基礎工学国際棟シグマホールにおいて開催されました。

今年で34回を数える本講座は、基礎工学部からの情報発信の一環として昭和54年から毎年開催されており、地域社会と大学との連携を深めるための重要な役割を担っています。

今回は、基礎工学研究科、生命機能研究科及び情報科学研究科の教員9名が、自らの研究成果や科学技術について、当該研究分野の歴史にはじまり最新の動向まで、分かりやすく講義を行いました。また、講義終了後に実施した研究室見学も大変好評でした。

中学生から80代の方まで、127名の参加者が熱心に講義に取り組み、3日間の公開講座は盛況のうちに終了しました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



講義の様子

「大阪大学国際同窓会」新卒業生歓迎会を開催

7月22日(日)、東京学士会館にて、大阪大学国際同窓会が新卒業生歓迎会を開催しました。大阪大学を卒業し、関東地区で勤務する元留学生やその家族など約40名の参加がありました。元留学生センター長の古城紀雄名誉教授も出席され、卒業生たちが国や出身学部、職種を超えた新たなネットワークを広げることができました。日本で働く上での情報交換や在学留学生への就職相談への協力など、今後の国際同窓会の活動が期待されます。

(国際教育交流センター)



平成24年度 国際教育交流センター連絡交換会を開催

7月27日(金)、コンベンションセンター会議室1において平成24年度国際教育交流センター連絡交換会を開催しました。本会では、留学交流に係る諸課題について意見交換並びに情報交換を行うことを目的としており、国際交流委員会委員、国際教育交流センター教授会構成員、事務局及び部局等留学生担当関係者から、計66名の出席者がありました。高橋明国際交流担当理事・副学長から「大阪大学の新たな国際戦略について」のご講演、その後留学交流に関わる懸案事項についての問題提起、活発な意見交換、部局等から活動報告があり、本会終了後は、カフェテリアにて懇談会が行われました。

(国際教育交流センター)



総長等への表敬訪問

ブラジル連邦共和国・FAPESP 理事長補佐来訪

5月2日(水)、ブラジル連邦共和国・FAPESP 理事長補佐、Mr. Carlos Eduardo Lins da Silva 氏が高橋明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは言語文化研究科の河野彰教授、東明彦教授、板東照啓教授、平田恵津子准教授、ロジェリオ・アキチ・デゼン特任講師と、向井弘志国際交流課長が同席し、FAPESP (サンパウロ州立研究基金) についての紹介をいただきました。



【左から】高橋理事・副学長、
Mr. Carlos Eduardo Lins da Silva氏

ブルネイ・ダルサラーム国・産業一次資源省事務次官補一行来訪

5月7日(月)、ブルネイ・ダルサラーム国・産業一次資源省事務次官補 Ms. Hajah Hasnah Ibrahim 氏をはじめとする一行が高橋明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは工学研究科から民谷栄一教授、宇山浩教授、Dr. Quamrul Hasan、石川真由美国際交流オフィス教授、向井弘志国際交流課長が同席し、ハラル食についての安全性・モニタリングの共同プロジェクトについて意見交換が行われました。



【左から】Ms. Hajah Hasnah Ibrahim氏、
高橋理事・副学長

台湾・国立台湾大学一行来訪

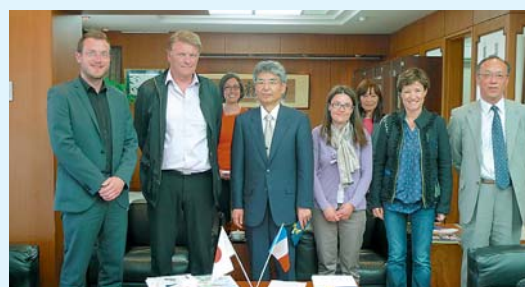
5月9日(水)、台湾・国立台湾大学副学長、林俊全氏をはじめとする一行が本学を訪問されました。本学からは安全衛生管理部から富田賢吾准教授、野瀬直則専門員、岩井智紀専門職員、環境エネルギー管理課から佐山博志専門職員そして、向井弘志国際交流課長が同席し、キャンパス内の警備やキャンパス内の施設及び緑地地域のメンテナンスについて意見交換が行われました。



集合写真

フランス共和国・グルノーブル大学連合来訪

5月14日(月)、フランス共和国・グルノーブル大学連合、University Pierre Mendès France 副学長 Dr. Jacques FONTANEL 氏をはじめとする一行が平野俊夫総長を表敬訪問されました。本学からは高橋明理事・副学長、向井弘志国際交流課長が同席し、今後の協力関係について活発な意見交換が行われました。



【中央から左に】平野総長、Dr. FONTANEL氏

中華人民共和国・人力資源社会保障部／国家外国人専門家局来訪について

5月14日(月)、中華人民共和国・人力資源社会保障部副部長・国家外国人専門家局局长、張建国民氏をはじめとする一行が高橋明理事・副学長、馬場章夫理事・副学長、相本三郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは笹川光研究推進部長、向井弘志国際交流課長が同席し、「外国人千人計画」について先方から紹介がなされた後、活発な意見交換が行われました。



【中央左から】高橋理事・副学長、張建国民氏

サウジアラビア共和国・在日サウジアラビア大使館文化部来訪について

6月7日(木)、サウジアラビア共和国・在日サウジアラビア大使館文化アタッシュ、Bukhary Essam氏をはじめとする一行が高橋明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは向井弘志国際交流課長が同席し、サウジアラビア共和国と本学の今後の協力について活発な意見交換がおこなわれました。表敬訪問につづき、高階美行外国語学部長らと、10月に予定されているサウジウィーク in 大阪について打ち合わせを行いました。



【中央左から】Bukhary Essam氏、高橋理事・副学長

ベルギー共和国・フランス語圏主要大学来訪について

6月14日(木)、ベルギー共和国・フランス語圏主要大学、リージュ大学副学長 Jean Marchal 氏をはじめとする一行が本学視察と意見交換のため本学を訪問されました。一行は免疫学フロンティアセンターを視察の後、高橋明理事・副学長、相本三郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは近藤佐知彦国際教育交流センター教授、長谷川和彦工学研究科教授、松田岳志法学研究科教授、山本亘彦生命機能研究科教授が同席し、今後の国際連携と研究連携について活発な意見交換がなされました。



集合写真



あなたの本が阪大生の「未来」のために 古本募金「Re:本（リボン）プロジェクト」始動！！

大阪大学基金室特任准教授 林 忠 正

大阪大学未来基金は、大学の自主的で持続的な財源を確保することを目的に平成21年5月に設立されて以来、4年目を迎えることができました。おかげさまで教職員や卒業生、保護者の皆様や企業の方々から多くの支援をいただいております、平成24年3月末現在で、基金の残高は20億円を超えました。ご協力をいただきました皆様に、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

大阪大学未来基金では、基金を大きく育てていくために様々な取組を行っていますが、今回は、寄付を身近に感じていただくための手法として立ち上げた、古書寄付のプログラムを紹介させていただきます。

■「RE：本プロジェクト」とは

大阪大学未来基金は、古本による大学への寄付プロジェクト「Re：本（リボン）プロジェクト」を7月9日から開始しました。この「Re：本プロジェクト」は、家庭や職場で不要になった古本を社会に還元するとともに、その売却代金を大阪大学の教育、研究のために寄付していただくプロジェクトで、書籍の買取・販売を行う(株)バリューブックスと提携し実現しました。このような「大学を通じて眠っていた書籍を再生し、同時に寄付による社会貢献を推進する」取り組みは、関東の大学やNPO団体等で実施されていますが、関西の大学としては初の試みです。

基金室では、大阪大学未来基金の認知を高め、寄付受入を拡大する取り組みを行っていますが、同時に、身近な寄付の方法を提案し、大阪大学やその教育、研究との関わり方を考える機会を提供させて頂く事も重要な活動の一つと

考えています。

捨ててしまうはずだった古本の再生を通じて日本の未来を支える若者達をサポートしてもらい、大学をこれまで以上に身近に感じて貰える、そんなプロジェクトにしたいと考えています。

■プロジェクト参加方法

卒業、就職、結婚などライフイベントにおいて発生する不要になった書籍。読み終えた小説や学び終えた参考書、そんな古本が5冊以上あれば、大阪大学の卒業生や保護者、教職員はもちろん広く市民の方にも気軽にご参加、ご利用いただけるプロジェクトです。参加方法は古本（書籍だけでなく、DVDやCDも対象となります）を段ボールに詰め、Web(<http://www.re-bon.jp/>)か電話（0120-826-292）で申し込むだけです。指定した日時に宅配便業者が自宅に回収に訪れ、あとは【図】の流れに沿って回収され、査定された古本の売却代金が大阪



【図】 Re：本プロジェクトの流れ

大学に寄付されます。

査定された売却代金（大阪大学への寄付額）は、提携先のバリューブックスから参加者ご本人にフィードバックされ、大阪大学からは、ご本人にお礼状と領収書を送付します。本プロジェクトによる寄付も、従来の未来基金への寄付同様、一定の要件に応じて税法上の優遇措置も受けられます。

また学生さんからの要望を受け、学内各所への「書籍投函用ポスト」の設置を現在検討しています。こちらに投函する場合は自分でまとめて箱詰めする必要がなく、1冊ずつでもポストに投函するだけでプロジェクトに参加していただけます（ただし金額のフィードバックや税法上の優遇措置を受けることはできません）。ポストの設置が実現すれば、学生さん達にもより気軽に参加していただけるのではないかと考えています。詳細が決まりましたら学内で告知する予定です。

■ ご寄付の活用

「Re：本プロジェクト」を通じて頂いたご寄付は、大阪大学未来基金に組み入れられ、学生が図書館に入る本を自ら選べる「学生選書プログラム」、学生が自らの意志で独創的かつ意欲的な研究活動を支援する「課外研究奨励事業」など、大阪大学の教育、研究のために活用されます。

■ 今後に向けて

プロジェクトはまだスタートしたばかり。今はまだ小さな流れに過ぎませんが、いずれは大阪大学がいかに多くの人たちに期待され、そして支えられているかを象徴する、そんなプロジェクトにしたいと思っています。より大きな流れにしていくためにも、教職員、学生さん、そして広く市民の皆様のご協力を是非お願いいたします。実績についても随時HP等で公表していく予定ですので、ご注目下さい。

そして大阪大学未来基金では、引き続き、皆さまに基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力の輪が広がるよう活動を進めてまいります。引き続きのご支援をお願いいたします。



「学生選書プログラム」では図書館にあったらいいと思う本を学生が自ら実際の書店やWebで選びます。



「実践的な物作り」をテーマに、フォーミュラ車両の開発を課外研究のテーマとした団体の活動です。

■ 本件に関する問い合わせ先

基金事務室 (tel: 06-6879-8327 mail: kikin@office.osaka-u.ac.jp)

(株)バリューブックス (tel: 0268-75-9377 mail: info@valuebooks.jp)

「Re：本プロジェクト」ホームページ <http://www.re-bon.jp/>

はやし・ただまさ

略歴：平成15年3月大阪大学法学研究科博士前期課程修了、平成15年4月株式会社UFJ銀行（現三菱東京UFJ銀行）入社、平成16年9月株式会社リクルート入社、平成23年10月より現職

プロフィール

大阪大学共通教育賞表彰式挙行

5月22日(火)に平成23年度第2学期大阪大学共通教育賞の表彰式を行いました。本賞は、全学の教員及び学生を対象に行ったアンケート結果に基づき、優れた授業を実践した教員が選出されますが、今回は特別賞(5度目及び10度目の受賞)受賞者2名を含む13名が選出されました。表彰式では、平野俊夫総長から表彰状と記念品の授与が行われました。なお、平成14年度より実施して参りました「大阪大学共通教育賞」は今回の表彰をもって終了となります。



平成23年度第2学期大阪大学共通教育賞受賞者及び受賞理由一覧

【受賞対象カテゴリー】

カテゴリー1：優れた授業を実践した教員 カテゴリー3：共通教育実践のための優れた著述を行った教員
カテゴリー2：優れた教科書等を著した教員 カテゴリー4：共通教育の運営に顕著な功労のあった教員

【特別賞】

氏名	所属	受賞 カテゴリー	受賞理由
大前 智美	サイバーメディアセンター 特任准教授(常勤)	1	外国語教育科目「ドイツ語初級Ⅱ」をCALLにおいて行い、CALL教材を有効に利用した授業を行った。パワーポイントを用いた教材は、要点が明確でわかりやすかったと、受講生の評判が高かった。また、ドイツ語に関心を持てるようなビデオ教材を見ることで動機づけを高める工夫がなされたことも受講生に評価された。
竹蓋 順子	サイバーメディアセンター 准教授	1	外国語教育科目「実践英語」において、創意に富んだCALL教材によって特にリスニング能力の向上に効果的な授業を行った。ADLを用いた指導は、楽しく魅力的な授業として受講生の評判が高かった。リスニング力の向上を実感したという受講生も多く、学習意欲を高める指導法の的確さについても高い評価を得た。

【初受賞】

氏名	所属	受賞 カテゴリー	受賞理由
富田 直人	理学研究科 准教授	1	専門基礎教育科目「解析学B」において、わかりやすい説明や板書で受講生の意欲を高め、復習のステップを含めたすぐれた授業構成によってその理解を確実なものにする授業を行った。受講生からは、「授業の構成や前回の復習をした点よかった」「授業ではやる気が出た」「生徒に疑問を残さないような工夫をたくさんしてくださった」等の多数の推薦を受けた。
森 祐司 小口 一郎 山田 雄三	言語文化研究科	4	外国語教育科目「実践英語」におけるe-Learningによる授業を企画・導入し、文系・理系各クラスにおいて2年にわたって実施した。受講生に対するアンケートおよびTOEICペーパー模試等の実施により学習効果やコースデザインの適性について詳細に分析し、その効果や課題を示すことにより、今後e-Learningを本学の英語科目の新たな授業形態として本格的に導入していく道筋をつけた。
畑中小百合	非常勤講師	1	専門基礎教育科目「民俗学」において、映像を活用するなど受講生に民俗学への興味をかきたてる楽しく刺激的な授業を行った。受講生からは「好奇心を刺激し、非常に興味がわいた」「授業を聞くのが楽しかった」「民俗学を本当に好きなんだなあというのが伝わってきた」等の多数の推薦を受けた。

【再受賞】

氏名	所属	受賞 カテゴリー	受賞理由
日野 信行	言語文化研究科 教授	1	外国語教育科目「英語(Reading)」「英語選択」「実践英語」の授業をCALLにて行い、最新の世界のニュースを題材にした授業が受講生には刺激的であったと評価された。リアルタイムで世界各地のニュースを英語で聞いたり読んだりすることで、生きた英語、多様な英語に触れることができる授業を実践し、英語力の向上に高い効果があったのみならず、「国際的視野を広げ、教養を高めるのにも役立った」等受講生から多数の推薦を受けた。
岩居 弘樹	大学教育実践 センター 教授	1	外国語教育科目「ドイツ語初級Ⅱ」「地域言語文化演習(ドイツ語)」国際教養科目「世界の事情を英語で学ぶ」において、インターネット、ビデオやiPadを有効に利用した授業を行い、グループワークも取り入れることにより、学生の主体性を尊重した斬新な形態の授業を行った。様々な電子機器を利用することで、「退屈になりがちな語学学習が楽しくなった」等、受講生から多数の推薦を受けた。
牛瀧 文宏	非常勤講師	1	専門基礎教育科目「線形代数B」において、面白くかつわかりやすい授業を行い学生の理解を高める工夫を行った。特に学生に対して熱心で真摯な態度でのぞみ、受講生から「教えようとする気持ちが伝わった」「すべてにおいて学生に対する配慮がすばらしかった」「授業がしっかり構成されており、なおかつ面白い」等多数の推薦を受けた。
長岡 昇勇	非常勤講師	1	専門基礎教育科目「解析学B」において、学生の理解度を考慮し復習を交えながら丁寧にわかりやすい授業を行った。資料や参考問題を配布し学生の理解を高める工夫をおこなった。受講生から「学生の目線で授業を行っていた」「質問に対してはすぐに的確に答えてくれた」等多数の推薦を受けた。
林 芳樹	非常勤講師	1	専門基礎教育科目「解析学B」「数学演習B」において、学生の理解を配慮した進行速度で、丁寧にわかりやすい授業を実践した。演習をこまめに行い、板書を工夫するなどして、受講生からは「ゆっくりでわかりやすかった」などの評価が多く、学生の視点に立った授業を実施した。
保田 時男	非常勤講師	1	専門基礎教育科目「統計学 A-II」において自ら作成した配付資料をあらかじめ一つにまとめるなど、学生の理解を高める工夫をこらした授業を実践した。受講生から「講義資料が分かりやすく、今後活用する際にも大いに役立つ」「内容は難しいが教員の説明がわかりやすいため、理解できた」「統計が面白いと思った」等多数の推薦を受けた。

(全学教育推進機構)

大阪大学総長顕彰・総長奨励賞表彰

総長顕彰は、大阪大学に勤務する教員のうち、教育、研究、社会・国際貢献又は管理運営上の業績が特に顕著であると認められた者を顕彰し、大学の一層の発展を期することを目的として、また、総長奨励賞は、若手教員（概ね40歳以下の者。）のうち、教育及び研究の業績があると認められるなど、同分野で将来活躍することが期待される者を顕彰し、奨励することを目的として行うこととしております。初回の今年度は、29名に総長顕彰を、36名に総長奨励賞を授与しました。



表彰式は8月1日(水)にコンベンションセンターにおいて執り行われ、平野俊夫総長から出席者全員に賞状が授与された後、受賞者を代表して生命機能研究科の内村有邦特任助教（常勤）が謝辞を述べ、閉式しました。

大阪大学総長顕彰受賞者一覧

教 育 部 門					
所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
人間科学研究科	准教授	YAMAMOTO BEVERLEY ANNE	理学研究科	教 授	大 鹿 健 一
法学研究科	教 授	福 井 康 太	工学研究科	教 授	久 保 司 郎
研 究 部 門					
人間科学研究科	教 授	栗 本 英 世	基礎工学研究科	教 授	石 黒 浩 浩
理学研究科	教 授	伊吹山 知 義	基礎工学研究科	教 授	永 妻 忠 夫
理学研究科	准教授	森 田 靖 靖	言語文化研究科	教 授	大 澤 孝 孝
医学系研究科	教 授	熊ノ郷 淳 淳	情報科学研究科	教 授	村 田 正 幸
医学系研究科	教 授	山 下 俊 英	生命機能研究科	教 授	吉 森 保 保
歯学研究科	准教授	仲 野 和 彦	産業科学研究所	教 授	安 藤 陽 一
薬学研究科	教 授	辻 川 和 丈	社会経済研究所	教 授	HORIOKA CHARLES YUJI
工学研究科	教 授	中 野 貴 由	接合科学研究所	准教授	塚 本 雅 裕
工学研究科	教 授	福 住 俊 一			
社会・国際貢献部門					
言語文化研究科	教 授	日 野 信 行	蛋白質研究所	教 授	中 村 春 木
管理運営部門					
工学研究科	教授	大 島 巧 巧	産業科学研究所	教 授	山 口 明 人
工学研究科	特任教授(常勤)	高 橋 亮 一	全学教育推進機構	教 授	眞 鍋 昭治郎
基礎工学研究科	教授	戸 部 義 人	保健センター	教 授	杉 田 義 郎

大阪大学総長奨励賞受賞者一覧

教 育 部 門					
所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
全学教育推進機構	准教授	中 村 征 樹			
研 究 部 門					
文学研究科	准教授	市 大 樹	基礎工学研究科	講 師	土 井 謙太郎
文学研究科	准教授	桑木野 幸 司	基礎工学研究科	助 教	島 内 寿 徳
人間科学研究科	准教授	村 上 靖 彦	基礎工学研究科	助 教	田 原 一 邦
法学研究科	准教授	上 川 龍之進	言語文化研究科	准教授	井 上 さゆり
経済学研究科	准教授	佐 藤 泰 裕	言語文化研究科	准教授	三 宅 真 紀
理学研究科	准教授	植 田 一 石	情報科学研究科	准教授	梅 谷 俊 治
理学研究科	准教授	角 大 輝	情報科学研究科	准教授	竹 中 要 一
医学系研究科	助 教	原 口 直 紹	生命機能研究科	特任助教(常勤)	内 村 有 邦
歯学研究科	講 師	波 多 賢 二	産業科学研究所	准教授	多 根 正 和
歯学研究科	助 教	住 友 倫 子	産業科学研究所	准教授	向 川 康 博
歯学部附属病院	助 教	工 藤 千 穂	産業科学研究所	助 教	中 島 良 介
薬学研究科	准教授	岡 田 欣 晃	蛋白質研究所	准教授	昆 隆 英
工学研究科	准教授	高 橋 幸 生	社会経済研究所	教 授	松 島 法 明
工学研究科	准教授	松 村 浩 由	接合科学研究所	准教授	川 人 洋 介
工学研究科	准教授	水 上 進 進	太陽エネルギー化学研究センター	准教授	白 石 康 浩
工学研究科	助 教	津 田 哲 哉	サイバーメディアセンター	准教授	長谷川 剛 剛
基礎工学研究科	准教授	加 嶋 健 司	レーザーエネルギー学研究センター	助 教	川 山 巖 巖
基礎工学研究科	准教授	西 竜 志 志			

※受賞者の並びは部局別、職名順、氏名五十音順

※8月1日現在の所属・職名を記載しています。

(総務企画部人事課)

第13回（平成24年度）課外研究奨励費伝達式

第13回（平成24年度）課外研究奨励費の伝達式が、平野俊夫総長、東島清理事・副学長、宮崎純一学生生活委員会委員長らの出席のもと、7月6日（金）に本部事務機構棟301会議室において行われました。

課外研究奨励費は、「学部学生の研究意識の向上」を目的とし、個人又はグループ単位の学生自身による正課以外の研究テーマを公募し、独創的かつ意欲的であると認められたテーマに対して授与されるものであり、今年度は18件の研究テーマの応募のうち9件が採択されました。

伝達式では、初めに宮崎委員長から選考経過について説明があり、続いて平野総長から受賞者に対して賞状授与と講話が行われました。その後、各受賞者から研究の抱負等が述べられ、終始和やかな雰囲気のなか終了しました。



〈今年度採択されたテーマ〉

1. 国際法模擬裁判大会への取り組みを通じた国際法の研究
2. 遺伝子工学による独創的な生物デバイスの設計および機能評価
3. 大阪府一須賀古墳群のフィールド調査による古墳時代地域史の解明と成果の社会発信
4. 大学ボランティアセンターの存在が学生のボランティア活動に与える影響ー 3.11 東日本大震災後の対応の比較からー
5. 国際社会における企業間紛争の解決アプローチについて
6. 中国人留学生の意識と大阪大学のブランド力形成に関する研究
7. 小型レーシングカーにおける車両動的特性の解析およびそれに基づく学生フォーミュラ車両の開発
8. NHK 大学ロボコン優勝を目指して
9. より必要出力の小さな無尾翼人力機を目指して

（学生部学務課）

難波啓一教授「恩賜賞・日本学士院賞」受賞

日本学士院は天皇后両陛下の行幸啓を仰いで第102回日本学士院賞の授賞式を6月4日（月）に挙行し、生命機能研究科の難波啓一教授が恩賜賞および日本学士院賞を受賞しました。日本学士院によるこの授賞制度は明治43年に創設され、学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して授賞が行われるものです。

難波啓一教授は生命を支える様々な生体超分子の動作のしくみを解明するため、X線回折法や電子顕微鏡による立体構造解析法で独自の技術開発を進め、タバコモザイクウイルス、細菌べん毛、筋肉のアクチン繊維など、以前は解析不可能と考えられた生体超分子の立体構造を世界に先駆けて原子レベルで解明。これらの超分子ナノマシンが工学技術をはるかにしのぐ精度や桁違いに小さなエネルギーでしなやかに動作するしくみを解明しました。また、低温電子顕微鏡の画像解析による超分子構造解析法を格段に進歩させ、以前は何年もの歳月を要した数万におよぶ電顕像の収集と解析を数日に縮めるという画期的な高速化に成功。必要な試料も数ミリグラムから数マイクログラムへと減少させました。生命科学研究を大きく躍進させる、国際的に誇るべき独創性の高い研究成果であると評価されたものです。

授賞式前には、日本学士院にお迎えした天皇后両陛下に研究成果をご説明し、授賞式後には受賞者を宮中でのお茶会にお招きいただき、天皇后両陛下ならびに皇太子殿下、秋篠宮殿下、妃殿下や、宮内庁の方々と、食事をしながら懇談する機会がありました。

（生命機能研究科）



高田篤教授「フィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞」受賞

法学研究科の高田篤教授がフィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞を受賞され、6月19日(火)にドイツ連邦共和国大統領官邸にてヨアヒム・ガウク大統領よりこれを授与されました。

ジーボルト賞は毎年1名の日本人研究者を対象とし、学術上顕著な業績を上げ、日独文化・社会交流へ多大な貢献をなした功績に対して授与されるものです。大阪大学の現役教員としての受賞は、高田教授が初めてです。高田教授は公法学専攻で日独憲法の統治機構・原理を中心に顕著な業績をあげられ、多方面でドイツとの学術交流に尽力されました。

(法学研究科・法学部)



ガウク大統領と高田教授
(©Humboldt-Stiftung/David Ausserhofer)

水口裕之教授、森勇介教授、吉村政志准教授 第4回ドイツ・イノベーション・アワード「ゴットフリード・ワグネル賞 2012」奨励賞を受賞

薬学研究科の水口裕之教授、工学研究科の森勇介教授と吉村政志准教授が、第4回ドイツ・イノベーション・アワード「ゴットフリード・ワグネル賞 2012」奨励賞を受賞しました。この賞は、日本の若手研究者の支援と日独間の産学連携を促進することを目的として技術革新を重視するドイツ企業により創設され、在日ドイツ商工会議所の企業、日独研究者らにより選考されるものです。授賞式は、6月19日(火)に東京のドイツ連邦共和国大使公邸にて行われました。

水口教授は、『遺伝子導入技術を駆使したヒト iPS 細胞から肝細胞への高効率分化誘導と創薬応用』の研究が受賞対象となりました。

森教授、吉村准教授は、非線形光学結晶 CsLiB₆O₁₀ を発見し、結晶成長・素子化技術を独自に開発して今日の産業用紫外光源の実用化に貢献したことが評価されました。

(薬学研究科・薬学部、工学研究科・工学部)



森教授(後列左から2人目)、
吉村准教授(後列左端)、
ドイツ大使公邸にて。



駐日ドイツ商工特別代表と水口教授(左)

伊藤京子助教「第68回電気学術振興賞(進歩賞) 及び同(論文賞)」受賞

コミュニケーションデザイン・センターの伊藤京子助教が、一般社団法人電気学会から「第68回電気学術振興賞(進歩賞) 及び同(論文賞)」を受賞しました。

進歩賞は、電気に関する学術・技術に於いて新規な概念・理論・材料・デバイス・システム・方式等を新たに提案あるいはこれらの提案を実証した者、及び電気に関する製品・設備等を新たに完成又は改良し、顕著な成果をあげた者に授与されるものです。受賞の対象となった研究テーマは「科学技術コミュニケーションにおける市民との対話支援手法の開発」で、科学技術コミュニケーションの支援に向け、対話の流れと発言バランスを提示する機能、市民のための公共心を有する意見表明機能などを有する複数の有用なシステムを開発したことによるものです。

論文賞は、電気学会論文誌及び共通英文論文誌に発表された優秀な論文の著者に授与されるものです。受賞テーマは「顔面疾患を有する患者と医師とのコミュニケーション媒体の提案」で、患者の要求や気がかりを表明する媒体として「患者の表情」に着目し、患者と医師とのコミュニケーションを合成顔表情技術を用いて支援することを提案したことによるものです。

表彰式は、5月24日(木)、都市センターホテル(東京)で開催された第100回通常総会で行われました。

なお、受賞者の育成に尽力したことに対して、コミュニケーションデザイン・センター長に感謝状が贈呈されました。

(コミュニケーションデザイン・センター)



受賞者 伊藤京子助教

青木順助教「2012年度日本質量分析学会奨励賞」受賞

理学研究科の青木順助教が、2012年度日本質量分析学会奨励賞を受賞しました。本賞は、質量分析学の進捗に寄与する優れた研究をなし、将来の発展が期待できる若手研究者個人を表彰するものです。

受賞題目は、「高空間分解能・高質量分解能を持ったイメージング質量分析装置の開発」で、試料表面の物質の分布を質量ごとに観測できる装置を開発しました。イオン分布を結像させて画像を得る独自のイオン光学系とイオン引き出し法に、イオン分布を保存したまま飛行距離をかせげる多重周回飛行時間型質量分析計を組み合わせることで、1mの空間分解能と1万の質量分解能を同時に達成する世界最高性能のイメージング質量分析装置を実現したことが高く評価されました。この装置は、バイオ関連や表面分析などの様々な分野で幅広い利用が期待されています。

(理学研究科・理学部)



表彰式の様子（右から3人目が青木助教）

吉村政志准教授ら「第36回レーザー学会業績賞・進歩賞」受賞

工学研究科の吉村政志准教授、森勇介教授、佐々木孝友名誉教授らが、5月にレーザー学会業績賞・進歩賞を受賞しました。非線形光学結晶 $\text{CsLiB}_6\text{O}_{10}$ 中の水不純物を制御し、課題となっていた紫外レーザー損傷耐性を向上させ、今日の産業用紫外光源の実用化に貢献しました。また、アルミニウム添加結晶を開発し、紫外光経時劣化が抑制できるという新しい現象を見出しました。これらの成果が評価され、今回の受賞となりました。

(工学研究科・工学部)



本賞受賞者、関係者らと。吉村准教授（前列左から3人目）、佐々木名誉教授（前列左端）。

満留敬人 助教「Young Scientist Award」受賞

基礎工学研究科物質創成専攻の満留敬人助教が、7月1日から6日にかけてドイツ・ミュンヘンで行われた15th International Congress on Catalysis 2012においてYoung Scientist Awardを受賞しました。

環境調和型反応系を指向した金属ナノ粒子触媒の開発において優れた業績を挙げたことが認められ、今回の受賞となりました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



佐々木孝友名誉教授「第37回井上春成賞」受賞

工学研究科の佐々木孝友名誉教授は7月に井上春成賞を受賞しました。本賞は新技術開発事業団（現科学技術振興機構）が創設した賞で、大学等の研究成果をもとにして企業が製品化した技術の中で、科学技術の進展、経済の発展に貢献したものを表彰するものです。

佐々木名誉教授は在職中に紫外光発生に優れた非線形光学結晶 $\text{CsLiB}_6\text{O}_{10}$ を発見し、独自の結晶成長・素子化技術を開発しました。製品化を担当した光学技研株式会社とともに、今日の産業用紫外光源の実用化に貢献したことが評価されました。

(工学研究科・工学部)



佐々木名誉教授（前列右から2人目）、経団連会館にて

新部局長紹介

大 屋 幸 輔 (おおや こうすけ)

金融・保険教育研究センター長



【略歴】

- 昭61. 3 九州大学経済学部経済工学科卒業
- 63. 3 九州大学大学院経済学研究科修士課程経済工学専攻修了
- 平 3. 3 九州大学大学院経済学研究科博士後期課程経済工学専攻単位修得退学
- 3. 4 京都大学講師経済研究所
- 5. 4 大阪大学講師経済学部
- 6. 3 大阪大学助教授経済学部
- 6. 3 博士（経済学）（九州大学）
- 10. 4 大阪大学助教授大学院経済学研究科
- 17. 1 大阪大学教授大学院経済学研究科
- 22. 4 大阪大学人事労務室員（平24.3まで）
- 24. 8 大阪大学金融・保険教育研究センター長（平26.7まで）

新教授紹介

才 田 一 幸 (さいだ かずよし)

工学研究科



【略歴】

- 昭58. 3 大阪大学工学部溶接工学科卒業
- 60. 3 大阪大学大学院工学研究科溶接工学専攻前期課程修了
- 60. 4 大阪大学助手工学部
- 平 3. 2 工学博士（大阪大学）
- 8. 7 大阪大学講師工学部
- 9.10 大阪大学助教授工学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院工学研究科
- 24. 6 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：工学研究科マテリアル生産科学専攻生産プロセス講座
専門分野：溶接・接合工学、プロセッシング材料科学

上 田 貴 洋 (うへだ たかひろ)

総合学術博物館



【略歴】

- 昭63. 3 信州大学理学部化学科卒業
- 平 2. 3 大阪大学大学院理学研究科無機及び物理化学専攻博士前期課程修了
- 3. 3 大阪大学大学院理学研究科無機及び物理化学専攻博士後期課程中途退学
- 3. 4 通商産業省化学技術研究所
- 5. 1 通商産業省物質工学工業技術研究所（組織再編）（平9.6まで）
- 7. 6 博士（理学）（大阪大学）
- 9. 7 大阪大学助手大学院理学研究科
- 14. 4 大阪大学助教授総合学術博物館
- 19. 4 大阪大学准教授総合学術博物館
- 22. 4 東洋大学教授理工学部応用化学科
- 24. 4 大阪大学教授総合学術博物館

所 属：総合学術博物館資料先端研究系
専門分野：物理化学、核磁気共鳴分光学、ナノ空間科学

永尾汎名誉教授(理学部)逝去



本学名誉教授永尾汎先生は、平成 24 年 6 月 2 日に逝去されました。享年 87 歳でした。

先生は、昭和 21 年 9 月大阪帝国大学理学部を卒業後、同大学講師、大阪市立大学助教授、同大学教授を経て、昭和 43 年 4 月大阪大学理学部教授に就任、昭和 63 年 3 月停年により退官され、大阪大学名誉教授の称号を授与されました。この間、大阪大学評議員、大阪大学理学部長を務められ、大学の運営に尽くされました。

先生は、代数学の群論と組合せ論を中心とする分野において基礎的研究を展開され、無限群論、多元環論、有限群

の表現論、置換群論の各分野で多大な功績を挙げられました。その中には無限群についての「永尾の定理」のように、発表後 20 年以上たってようやくその重要性が広く認識されるようになったものも含まれています。また、モジュラー表現論における「永尾分解」は現代のモジュラー表現論においても様々な場面で応用される基本的な結果です。先生が著された教科書と専門書は、世代を超えて読み継がれ、広い範囲の学生や研究者に深い影響を与え続けています。

先生は、群論の指導的研究者として国内外の多くの研究集会の計画と実施に参与し、また、数度にわたって、アメリカ合衆国、カナダ、台湾などの大学に招かれ共同研究を行うなど、海外との研究交流に尽力されました。さらに、日本数学会評議員を歴任し、学会の発展にも大きく貢献されました。

大阪大学退官後は、帝塚山大学教授に就任され、平成 2 年 7 月同大学教養学部長並びに評議員を務め、さらに平成 3 年 4 月からは学校法人帝塚山学園長並びに理事に就任、平成 5 年 3 月に退職されるまで私学教育の発展に尽力されました。平成 14 年秋には、これまでのご功績により勲二等瑞宝章を受章されております。

永尾先生の長年にわたる多大のご功績を偲び、ここに謹んで哀悼の意を表します。
(理学研究科・理学部)

廣瀬達三名誉教授(基礎工学部)逝去



本学名誉教授廣瀬達三先生は、平成 24 年 5 月 15 日に逝去されました。享年 94 歳でした。

先生は、昭和 16 年 3 月大阪帝国大学工学部造船学科を卒業され、兵役(海軍技術大尉)を経られた後、昭和 20 年 9 月大阪帝国大学工学部助手に任ぜられ、昭和 21 年 12 月助教授に昇任、昭和 28 年 4 月大阪大学助教授に配置換えとなり、昭和 36 年 3 月大阪大学より理学博士の学位を授与されました。昭和 38 年 4 月大阪大学基礎工学部(機械工学科機械熱学講座)教授に就任され、長年にわたり教育研究及び大学運営にご尽力されました。昭和 57 年 3 月に定年退官され、大阪大学名誉教授の称号を授与されました。退官後は、福井工業大学教授に就任され、同大学の教育並びに管理運営にご尽力されました。

先生は、船舶並びに流体機械の重要かつ困難な問題であ

るキャビテーション研究に従事され、キャビテーション気泡生成の条件を明確にするとともに、定常キャビテーション並びにキャビテーションによる高分子解重合や脱気の機構を解明されました。キャビテーション生成に関連した液体論の分野にも研究対象を拡大され、液体の粘弾性の一般論に関して空孔生滅説を展開し、剪断粘性並びに体積粘性についての重要な知見を得られました。また、キャビテーションに関する基礎的な研究を進展させ、応用面での活用を目指した綿密な実験によりキャビテーション気泡のダイナミックな挙動を明確にされ、常圧並びに加圧時のキャビテーションエロージョンの問題に応用して卓越した研究業績をあげられました。さらに、キャビテーションエロージョンの主要原因とされていた気泡の収縮・再膨張時に発生する衝撃波の作用とマイクロジェット的作用を分離計測してエロージョンの発生機構を明らかにされました。これらの業績は国内外の関係者から高い評価を受け、昭和 62 年には日本機械学会論文賞を受賞されました。

以上のように、先生は研究者として優れた業績を生み出され、造船工学並びに機械工学の発展に多大の貢献をなすとともに、教育者として強い信念に支えられた情熱をもってあたられ、多数の優秀な後進を育成して教育の場に貴重な伝統を築きあげられました。平成 6 年にはこのような偉大なるご功績が国家または公共に対して極めて顕著であることから、勲二等瑞宝章を授与されています。廣瀬先生の多大なるご功労を偲び、ここに謹んで哀悼の意を表します。

(基礎工学研究科・基礎工学部)

櫻井良文名誉教授(基礎工学部)逝去



本学名誉教授櫻井良文先生は、6月21日(木)に逝去されました。享年91歳でした。

先生は、昭和18年に大阪帝国大学工学部を卒業後、昭和21年大阪帝国大学講師、昭和23年大阪大学助教授を経て、昭和34年同教授に昇任されました。昭和40年に新設の基礎工学部に移られてからは、昭和44年同学部長事務取扱及び評議員の重職を通じて基礎工学部の発展に貢献され、昭和59年に停年退官、大阪大学名誉教授の称号を授与されました。同年摂南大学教授に就任、工学部長、副学長を経て、平成3年同大学長・理事に就任、平成5年大阪工業大学長・理事として平成11年10月まで管理運営に尽力されました。

先生の研究は広範多岐に及びます。自動制御分野では変換検出器、磁気増巾器、非線形磁心を用いた演算器等の研究から、日本の研究水準を一挙に世界的レベルへ引き上げられました。磁気メモリの分野ではフェライトコア、パーマロイ薄膜の研究から微小機能素子を作ることを提案し、磁気バブルメモリの先駆けとなる成果を挙げておられます。アモルファス磁性膜の研究では、米国と同時にバブル膜の作製に成功、世界に先駆けてテレビウム鉄系膜の光熱磁気メモリとしての諸特性を解明し、今日欠くことのできない高密度記録光磁気ディスクを実用化へと導き、この分野における日本の国際的優位を確立されました。これらの卓越した一連の磁気応用の業績に対して、昭和60年第1回日本応用磁気学会学会賞、平成4年IEEE Magnetic Societyより Achievement Award を受けておられます。

先生は日本学術会議会員、日本応用磁気学会会長、日本自動制御協会(現システム制御情報学会)会長、文部省学術審議会専門委員等を歴任され、学術界の発展に貢献されました。昭和63年IEEE Fellowに選ばれ、昭和55年磁気バブル国際会議議長、昭和56年自動制御国際会議副議長などを務められました。これらの顕著な功績から、平成9年勲二等瑞宝章を受章されておられます。

先生の長年のご功績を偲び、多数の有為な人材を各界に送り出していたことに感謝し、ここに謹んで哀悼の意を表します。
(基礎工学研究科・基礎工学部)

石上重行名誉教授(微生物病研究所)逝去



本学名誉教授石上重行先生は、7月3日(火)に逝去されました。享年93歳でした。

先生は、昭和17年9月大阪帝国大学医学部を卒業と同時に、同大学医学部副手となり、昭和21年3月同大学医学部附属病院医員、昭和23年3月同大学医学部副手を経て、昭和24年6月文部教官に任ぜられ、昭和27年4月公立紀南病院内科医長に転出し、昭和28年10月大阪大学医学部講師、昭和32年2月同大学微生物病研究所助教授を経て、昭和40年8月同教授へ昇任されました。また、昭和49年4月から退官される昭和53年3月まで同附属病院長として、研究所及び附属病院の管理運営に努め、その発展に大きく寄

与され、同年4月大阪大学名誉教授の称号を授与されました。

また、大阪大学退官後の昭和53年4月からは、大阪府立成人病センター初代病院長に就任し、昭和60年6月同センター総長を経て、平成元年4月同センター名誉総長となられ、同センター及び同センター病院の管理運営に努め、行政面及び医療の実際面において、成人病対策の確立、推進に尽力されました。

学術研究に関しては、広汎な内科学の領域において、特に血液学、腫瘍学に重点をおき、血液学については、血色素の主要構成素材である「鉄」に着目し、鉄代謝の病態生理の解明に広汎なる研究を展開され、ことに、白血球にフェリチン、ヘモジデリンなどの機能鉄が存在することを確認され、白血球鉄の臨床的意義を明らかにされるとともに、白血球の運動形態、運動機構を初めて明らかにされました。

同人は、常に独創的な立場で、臨床と基礎を直結する多くの研究を行われ、優れた業績を挙げられたほか、医学教育、大学並びに医療機関の管理・運営及び国際交流に尽力されるとともに、我が国の医学の進歩にも大きく貢献され、その功績により、平成4年11月勲二等瑞宝章を受章されました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(微生物病研究所)

大阪大学総合学術博物館創立10周年記念 文化財公開シンポジウム
奈良の大仏はなぜ“若くみえる”のか？
ー美術史、化学、修復からみた金銅仏の最新研究ー

地球上で最も大きな金属の鋳造物としてユネスコ世界遺産に登録される東大寺の大仏像は、造立から1200年以上も経た現在でも像表面はもろくなっておらず、銅の酸化が深い層までそんなに進行していないという事実に驚かされます。これは、湿度の多い日本の気候のもとでの自然酸化の現代科学知識をしてもまったく不思議なことです。「大仏がなぜ若く見えるのか？」のなぞ解きは、大阪大学産業科学研究所へ短期来日した Rui Lobo 教授（ルイ・ロボ教授、New University of Lisbon、ポルトガル）と笠井俊夫名誉教授との共同研究における議論に端を発し、SPRING-8における銅合金の表面酸化反応に関する共同研究を基礎にしながら、美術史の専門家の助言も得て、今回、イタリアアカデミー（Accademia dei Lincei: アッカデーミア・デイ・リンチェイ: 山猫学会）の会誌 Rendiconti Lincei - Scienze Fisiche e Naturali Vol. 24 (2012) (物理科学系の学術雑誌) の6月号に掲載されました。この大仏についての文化財科学の新知見をもとに、仏教美術を専攻する美術史の専門家と、美術院国宝修理所で数々の金銅仏を修復した仏師をむかえ、それぞれの立場から金銅仏研究の最先端を紹介し、金銅仏の魅力と謎についての文化財公開シンポジウムを開催します。

日 時：平成24年9月8日(土)

第1部(講演) 13時30分～ 第2部(対談) 15時15分～

第1部 講演

講演1「美術史の眼ー金銅仏研究の現在ー」文学研究科教授 藤岡 穰

講演2「化学から大仏の謎を解く」大阪大学名誉教授 笠井俊夫

講演3「私の修復した金銅仏たちー薬師寺、蟹満寺、東大寺八角燈籠ー」

財団法人美術院国宝修理所主任技師 八坂寿史

第2部 対談 藤岡 穰・笠井俊夫・八坂寿史

場 所：大阪大学会館・講堂

主 催：総合学術博物館

共 催：文学研究科

協 力：21世紀懐徳堂

定 員：200名

参 加 費：無料

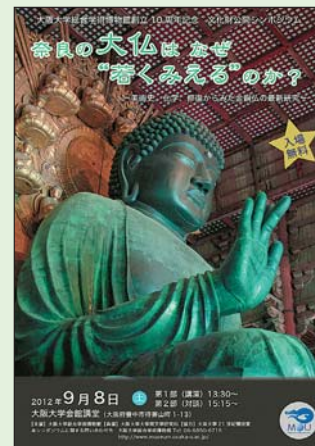
参加方法：1) お名前 2) ご職業 3) E-mail アドレスまたはFAX 番号を明記の上、件名【10周年記念シンポジウム参加希望】として、8月31日(金)までに oubo@museum.osaka-u.ac.jp または FAX (06-6850-6049) でお申込み下さい。定員になれば締め切ります。定員オーバーの場合のみ、ご連絡いたします。あしからずご了承ください。

本件に関する問い合わせ先

広報・社会学連携オフィス 社会学連携課社会学連携第一係(総合学術博物館担当)

Tel: 06-6850-6715 Fax: 06-6850-6720

(総合学術博物館)



国際教育交流センター 外国人留学生就職支援

サポートオフィスとIRIS(留学生交流情報室)では、外国人留学生の日本に於ける就職支援に取り組んでいます。昨年度は、就職対策セミナー、本学卒業生の就職体験談セミナーを開催しました。また留学生が個別に相談できる就職相談コーナーも始めました。これまで約140名の留学生にこうした支援を利用いただきました。

今年度は秋学期より、さらに内容を充実させた全15回のシリーズとして、「留学生就職対策講座」を行います。この講座では、特に留学生が本人の希望や能力を活かして国内外でグローバル人材として活躍していくためのスキルを学びます。お問い合わせは、career@isc.osaka-u.ac.jp まで。



就職セミナーの様子

(国際教育交流センター)

平成24年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修

9月21日(金)に吹田キャンパスのコンベンションセンターで、9月26日(水)に豊中キャンパスの豊中総合学館で、平成24年度の全学FD研修を開催します。特任教員を含むすべての教員が対象で、研究員も受講が可能です。本学の教育力開発の第一歩として、積極的な参加をお願いいたします。

平成24年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 研修日程表

吹田地区 平成24年9月21日(金)コンベンションセンター						豊中地区 平成24年9月26日(水)豊中総合学館					
13:00~13:30 (30)	13:30~13:45 (15)	13:45~15:00 (80)	15:00~15:10 (10)	15:10~15:20 (10)	15:20~16:50 (90)	13:00~13:30 (30)	13:30~13:45 (15)	13:45~15:00 (80)	15:00~15:10 (10)	15:10~15:20 (10)	15:20~16:50 (90)
受付・資料配付	開会挨拶	講話	研修	研修A	研修B	受付・資料配付	開会挨拶	講話	研修	研修A	研修B
		《教育から学習へ、主体的学びを重視した大学教育への転換を求めて》	《個人情報保護》	《新しいVTA制度について》 講師 医学研究科 教授 下田 正	《能動的学習について(MD研究者プログラムを例として)》 講師 医学研究科 特任助教 河盛 俊			《教育から学習へ、主体的学びを重視した大学教育への転換を求めて》	《個人情報保護》	《新しいVTA制度について》 講師 医学研究科 教授 下田 正	《能動的学習について(MD研究者プログラムを例として)》 講師 医学研究科 特任助教 河盛 俊
		《共通教育賞受賞者による模範授業ICTを用いた授業の取り組み(仮題)》 講師 全学教育推進機構 教授 岩田弘隆	《授業支援システム(WebCT)について》 講師 サイバーメディアセンター 教授 竹村治雄	《学生相談室から見た阪大生》 講師 保護センター教授 井上 洋一 工学研究科 附属高度人材育成センター特任教授 座古 勝				《共通教育賞受賞者による模範授業ICTを用いた授業の取り組み(仮題)》 講師 全学教育推進機構 教授 岩田弘隆	《授業支援システム(WebCT)について》 講師 全学教育推進機構 教授 岩田弘隆	《学生相談室から見た阪大生》 講師 保護センター教授 井上 洋一 工学研究科 附属高度人材育成センター特任教授 座古 勝	
		講師 神戸大学 大学教育推進機構・副部長 教授 川崎 太津夫 氏	講師 阪大 個人情報保護推進室 室長 尾山理事					講師 神戸大学 大学教育推進機構・副部長 教授 川崎 太津夫 氏	講師 阪大 個人情報保護推進室 室長 尾山理事		
					※研修A～Cの内1つを選択						※研修A～Cの内1つを選択

(学生部学務課)

第28回湯川記念講演会

日 時：平成24年10月7日(日) 13:00 - 17:00
場 所：大阪大学中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール
大阪市北区中之島 4-3-53
中之島センター URL: <http://www.onc.osaka-u.ac.jp/others/map/index.php>
対 象：高校生以上の学生及び一般の方々
定 員：先着 190名
受 講 料：無料
主 催：大阪大学総合学術博物館湯川記念室
共 催：日本物理学会大阪支部
後 援：日本物理教育学会近畿支部

高校生、一般の方を対象に、最前線の物理を紹介します。

13:00 - 14:30 「超伝導の発見から100年」
前野 悦輝 (京都大学大学院理学研究科教授)
15:00 - 16:30 「観測で探る宇宙の起源 - 膨張する宇宙の謎をめぐって -」
羽澄 昌史 (高エネルギー加速器研究機構教授)

申込方法：郵送、E-mail または FAX で、氏名(ふりがな)、住所、郵便番号、電話番号、年齢、性別、職業をご連絡下さい。
(ご連絡いただいた個人情報は、他に利用するものではありません。)
電話によるお申し込みは不可とさせていただきます。定員に余裕のある場合は、当日会場でも受け付けます。
〒560-0043 豊中市待兼山町 1-1 大阪大学大学院理学研究科内 湯川記念講演会係
E-mail: yukawa7@het.phys.sci.osaka-u.ac.jp (件名は「2012.10.7 参加申込」をお願いします。)
FAX: 06 - 6850 - 5341
〈問い合わせ先〉大阪大学大学院理学研究科内 湯川記念講演会係
TEL: 06 - 6850 - 5341 (月～金 10:00 ~ 17:00)

詳 細: <http://www-yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/sympo/sympo28.html>



(総合学術博物館湯川記念室)

最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2012

最新の自然像に触れ、自らの自然観を養ってほしい。そのような願いを込め、今年も「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2012 一宇宙からの極微の世界まで」を開催します。一線で活躍する研究者による最先端の物理の分かり易い講義に様々な実験デモや展示もとりいれ、自然の謎を解き明かす物理を探索します。また、科学の知識と技術が私たちの社会にどのように生かされているかについても解説します。土曜の午後に6週間続く、内容ゆたかな、とても楽しい学校を目指します。好奇心旺盛な方々の参加をお待ちしています！

日時：平成24年10月13日、20日、27日、11月3日、10日、17日 午後3時—6時

場所：理学研究科大講義室（豊中キャンパス）他

主催：総合学術博物館湯川記念室

共催：理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、全学教育推進機構、
レーザーエネルギー学研究センター、核物理研究センター

後援：大阪府教育委員会、京都府教育委員会、奈良県教育委員会、兵庫県教育委員会、
京都市教育委員会、日本物理教育学会近畿支部、大阪府高等学校理化教育研究会、
朝日新聞社、大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター

【授業構成】

授業は毎回3時間で、次の三部構成で行います。

- (1) 基幹講義：自然界の様々な世界を訪ねます (2) コーヒーブレイク：展示、交流、Q&A
- (3) 実践講義：ハイテクにおける物理、ゲーム、クイズ

11/3は、レーザーエネルギー学研究センター、核物理研究センター、工学研究科の最先端研究施設を見学します。

【募集対象】高校生（教職員、保護者のオブザーバー参加も可能です。）

【募集人数】180名 【参加費】無料

【申し込み】事前の申し込みが必要です。郵便・FAX・E-mail又はWebサイトからお申し込みください。

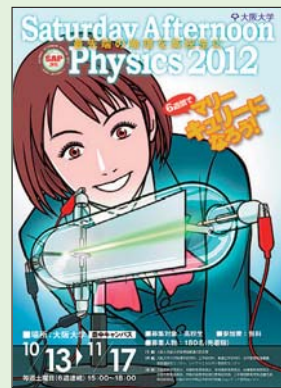
※詳しくはホームページ <http://www.yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/SAP/> をご覧ください。

【申し込み締め切り】9月22日（土）必着

〈問い合わせ先〉理学研究科内 湯川記念室 FAX：06－6850－5341

E-mail：sap2012@phys.sci.osaka-u.ac.jp（件名は「SAP2012・氏名」としてください。）

（総合学術博物館湯川記念室）



学部学生の皆さんへー自主研究の奨めー

大学教育は「教わるから学ぶ」へ大きく変わろうとしています。大学で学ぶ上で大切なことは自主的な学習態度を身に付けることです。色んな分野の専門家が集う大学は、意欲的な学生にはまさに宝庫と言えるでしょう。

大学では様々な問題解決法を学びますが、大学や社会で活躍する上で、それにもまして大切なことは、解くべき適切な問題を見つける事です。画期的な研究は独創的な課題設定から生まれます。与えられた問題を解くだけでなく、自分だけの課題を見つけて自主研究をしてみませんか？

大阪大学でも「課外研究奨励費」を設け学部学生の課題研究を奨励していますが、昨年度から、自然科学分野を学ぶ学生の能力・研究意欲を高めるとともに、課題設定能力、課題探求能力、プレゼンテーション能力等を備えた創造性豊かな科学技術人材育成を目的とした文部科学省主催「サイエンス・インカレ」が始まりました。今年度も全国大会が平成25年3月2日（土）、3日（日）に開催され、優秀な研究をした人には文部科学大臣賞をはじめ数々の賞が用意されています。第1回目のサイエンス・インカレの様子や第2回目の案内は<http://www.science-i.jp/>に掲載されています。全国から集まった学部学生が自分たちの研究を報告し、互いに意見交換を行い、更に研究意欲を高めています。大阪大学の学部生が自主研究を行ってこの大会に参加し、全国の意欲的な学生と交流を深めることを願っています。

理事・副学長（教育担当） 東島 清

第2回サイエンス・インカレ 大会日程等（予定）

1. 日程 平成25年3月2日（土）、3日（日）

2. 大会出場者の選抜

エントリー期間：平成24年9月上旬～11月中旬

書類提出期間：平成24年10月上旬～11月下旬

出場者の決定：平成25年1月上旬

3. 会場 東京近郊

4. 応募条件

以下の学生が主体的に取り組んだ未公表の研究

大学1～4年次（短期大学1～2年次を含む）の学生

高等専門学校4～5年次の学生

高等専門学校及び短期大学の専攻科の1～2年次の学生

5. 募集分野 自然科学系の全分野（人文・社会科学との融合領域を含む）を対象

6. 発表部門 口頭発表及びポスター発表を実施

（学生部学務課）

INTERVIEW

中川 由紀子

友人の結婚式は
ダンスで祝福

国際交流オフィス国際交流課海外拠点支援係



今回インタビューをした中川さんは旧大阪外国語大学（以下「旧外大」）のご出身で、学生時代の留学に加えて、語学研修や海外拠点での勤務を経験するなど、世界を股に活躍してこられました。そんな中川さんが学生時代から現在まで続けているのが「ダンス」。その魅力とは何か、お話を伺いました。

ーダンスとの出会いや活動について教えてください

私とダンスの出会いは、旧外大の学生だったときに始まります。高校時代の友達の影響で、大学のダンスサークル“ROOTS”に入りました。“ROOTS”はストリートダンスのサークルですが、メンバーはみんなジャズやヒップホップなど、自分の好きなジャンルを踊ります。私は主に70年代のSoul Musicにのせて踊る「ソウル（Soul）」と腕を多用して音楽を表現する「ワック（Waack）」というダンスをやっていました。有名なダンサー「ジョンテ」という人が、キャンディーのCMでワックダンスを披露しているので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれません。

大阪大学に就職してからは、週1回、ダンススタジオのレッスンに通っています。そこでは、小学3年～50歳ぐらいの方まで幅広く、将来ダンサーを目指しているような中学生以下の子どもたちが半数を占めています。私の年代（20～30代）が一番少ないです。違った年代の方たちとは普段の生活ではなかなか接することがないので、小学生の子が小さな体を目いっぱい動かしてレッスンしている姿を見たりすると、自分にとっても大きな刺激になっています。



発表会の会場でダンス仲間と（左が中川さん）

スタジオでは、年に1回発表会があります。本番が近くになると週1回の練習では間に合わないので、自主練習をします。最近は箕面キャンパスでこっそり踊っています。今年は9月15（土）～16（日）に発表会があるので、そろそろ箕面キャンパスで私の姿を見かけるようになるかも

れません（笑）。

また、ダンス仲間の結婚式では、ダンスで祝福することもあります。先日、出席した友人の結婚式では、新婦もウェディングドレス姿で踊りに参加していました（右写真）。



ダンスはスポーツだけど、アーティスティックな面が強いです。私にとっては、「体を動かすことによって表現する」というところに魅力を感じています。また、体を動かすことで普段の仕事のリフレッシュになるので、オンとオフに区切りをつけることにも役立っています。

ー母校で働いていて、何か特別な思いなどはありますか？

私が採用されたのは、旧外大と統合するちょうど2か月前。母校の名前はなくなってしまいましたが、私の中では寂しい気持ちはそれほどありませんでした。むしろ、大阪大学は交流協定校が多く、外国語学部生にとって交換留学の選択肢が増えるのは、大きなメリットだと思いました。外国語学部では、ほとんどの学生が在学中に海外留学をしますが、海外の協定校は限られているので、大部分は休学して私費で渡航します。私もその一人でしたので、今の外国語学部生はぜひチャンスを活かしてほしいですね。

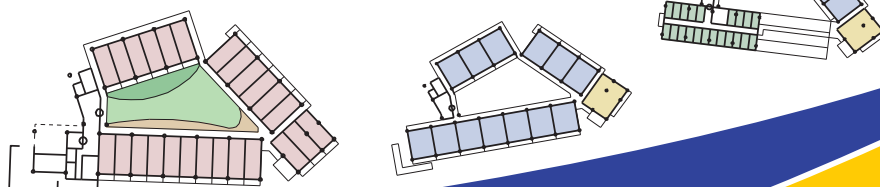
ー現在の仕事やこれからの目標を聞かせてください。

私はこの4月から、国際交流オフィス国際交流課の海外拠点支援係で、上海教育研究センターの担当をしています。これまで、英語を中心に語学を学んできた私にとって、中国語表記に慣れておらず、現地で扱う書類の理解に時間がかかるのが今の悩みです。読み方がわからないので、辞書を引くこともままなりません。

また、4月から初めて後輩を持つようになって、教えることがいかに大変かを実感しています。これからは、語学の勉強も頑張りながら、自分の仕事と後輩への指導のバランスがとれた職員になりたいですね。

「住」に関するワンストップ・サービスを提供

ハウジング課



これまで各部、オフィス等に分かれていた学寮、留学生宿舍、教職員宿舍、宿泊施設の管理・運営等を一括して行うことを目的として、平成24年4月1日に「ハウジング課」を設置しました。

ハウジング課は、本部事務機構棟1階に事務室があり、企画係、学寮担当、教職員宿舍担当、宿泊施設担当の1係3担当体制で業務を行っています。これまで、施設の相互利用を行っていないため効率的な管理運営が困難である、料金設定のトータルマネジメントができていない、施設の一元的な中長期運用計画・整備計画が策定できていない、など、宿舍や宿泊施設の業務に関してさまざまな課題が指摘されていました。ハウジング課は、これらの課題の解決を目指して本学における「住」に関するワンストップ・サービスを推進し、効率的な管理運営や料金設定等のトータルマネジメントを行い、施設の中長期運用計画・整備計画の策定などを進めていきます。

今後は、さらに業務改善を行い、来年度中には企画係と管理系の2係へとスリム化を目指し、業務決定の迅速化や、コストの削減につなげていきます。学寮においては、大学の国際化に寄与するために、日本人学生寮を留学生と混住化し、日常から異文化とのコミュニケーションを図る場となるよう整備を進め、教職員宿舍においては、耐震性能の問題や老朽化対応の問題など様々な問題が顕在化しつつあり、これらの問題をまとめて解決する方法を現在検討中です。宿泊施設についても、研究者や短期利用者、附属病院の患者様のご家族など、様々なニーズに応えられるよう、施設を整備しつつ、利用しやすい環境作りに努めます。

また、大学には、職員会館として豊中キャンパスに待兼山会館、箕面キャンパスに箕面会館があり、1泊600円からと大変利用しやすくなっております。吹田キャンパスには平成22年6月から供用を開始した春

日丘ハウス（詳細は次ページに掲載）があり、世界最先端の研究者の宿泊施設として最新の設備が整っており1泊3,000円からで、教職員等の短期宿泊にも対応しています。これら施設は学会や会議など、学外の方が来学される際にも是非ともご利用ください。

その他にも「住」に関することでお困りのことがあれば、お問い合わせ下さい。

【問合せ先】

ハウジング課

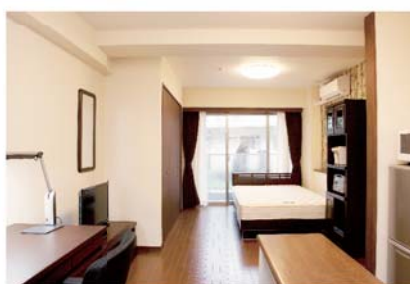
ハウジング全般 06-6879-4969
学寮関係 06-6879-4968
教職員宿舍関係 06-6879-7064
宿泊施設関係 06-6879-7948

【管轄の寮、施設一覧】

施設の種類	施設名称
学寮	刀根山寮、清明寮、新稲寮、向陽寮、もみじ寮、吹田留学生会館、新稲国際学生宿舍、箕面国際学生宿舍、箕面留学生会館、国際交流会館（C棟）、津雲台国際学生宿舍
教職員宿舍	石橋（二）宿舍、石橋（四）宿舍、桜の町宿舍、売布宿舍、緑丘宿舍、豊中東宿舍、箕面宿舍、桃山台宿舍、津雲台宿舍、宮山外国人教師宿舍、小野原外国人教師宿舍
宿泊施設	箕面会館、待兼山会館、国際交流会館（A,B棟）、国際交流会館吹田分館、春日丘ハウス



C type		外観
B type	A type	S type



大阪大学 春日丘ハウス



大阪大学春日丘ハウスは

外国人研究者長期宿泊施設 (ロングステイタイプ)

海外から優秀な人材をお招きするための
ハイクオリティな宿泊施設

研究者等短期宿泊施設 (ショートステイタイプ)

大阪大学で研究を行う研究者、
大阪大学病院を受診される患者様と
そのご家族様にご利用頂ける宿泊施設

インターネット 無料
ケーブルテレビ 無料

としてご利用頂けます

春日丘ハウスは以下の様なご利用にも対応しています

- ・ロングステイタイプはマンスリー利用だけでなくウィークリー利用も可能です
- ・大阪大学の各部局は春日丘ハウスの年間貸切使用が可能です
- ・大阪大学に従事する医員・研修医の方はロングステイタイプをご利用頂けます
- ・ショートステイタイプは教職員の方もご利用頂けます

お問い合わせ先：大阪大学ハウジング課 06-6879-7948



欧州同窓会その後の各地域の会活動報告

グローニンゲン教育研究センター長 赤 井 久 純
副センター長 中 野 生 穂

■ センター長交代

平成 24 年 4 月 1 日付で弘津禎彦前センター長の後任として赤井が着任致しました。出張ベースで現地に赴く形で、国際交流オフィスのサポートのもと、中野副センター長と協力して現地でのセンターの運営を行っております。

まず着任して感じたのは、グローニンゲン大学をはじめとするオランダ、欧州の大学の国際感覚の鋭さとネットワークの良さでした。文化的、言語的にも地理的にも欧州内の連携の良さは当然で、うらやましく感じるところですが、アジアに対する様々な問いかけも適切で力強く、単に教育・研究における欧州の地位向上のためだけの政策とは考えられない意欲を感じさせました。勿論、欧州の教育・研究政策が世界経済の動きと連動していることは当然であり、そのことを反映してアジアにおける欧州の興味がこのところ次第に日本から離れていっているという事実は残念なところです。

そのような状況にもかかわらず、大阪大学と歴史的にも特別な関係にあるグローニンゲン大学の本学に対する力の入れ方は驚くほど強く、様々な共同プロジェクトや連携活動に対する取り組みに接するうちに、グローニンゲンが大阪大学の欧州における国際連携の要になっていることを痛感致しました。

■ 欧州同窓会各地域の活動報告

大阪大学欧州同窓会は、平成 23 年 6 月 18 日ベルリンでの第 1 回総会にて発足致しました。その後これまで、イタリア 3 回、フランス・オランダ各 2 回、イギリス 1 回の各地域の同窓会が開催されました。



(上) 平成 24 年 5 月 14 日
パリ同窓会



(下) 平成 24 年 5 月 26 日
ミラノ同窓会



(上) 平成 24 年 6 月 2 日
アムステルダム同窓会



(下) 平成 24 年 3 月 2 日
ロンドン同窓会

イタリア地域の同窓会は、これまで 3 回とも主にミラノ在住の本学卒業生や、大阪外国語大学イタリア語専攻の卒業生の方々を中心に地元のレストランで開催されました。グルメの街ミラノならではの食事とワインに話が弾み、楽しい会となりました。ミラノを中心としたイタリアの地域同窓会は、ベルリンでの総会の後、新規に立ち上げられたまだ新しい組織ですが、非常に結束力の高い親密な同窓会組織となりました。フランス地域の同窓会は、主にパリ在住の咲耶会の会員の方を中心に、肩ひじのはらないアットホームな雰囲気の開催となりました。平成 24 年 5 月 14 日の第 2 回の開催では、パリ 1 区にあるクスクス料理のレストランにて 14 名の参加がありました。その後近くのカフェに場所を移し、遅くまで歓談が行われました。オランダ地域の同窓会は、第 1 回の地元グローニンゲン開催に続き、平成 24 年 6 月 2 日アムステルダムにて第 2 回が開催されました。当日はオランダに研究滞在中の本学学生の参加もありました。また平成 24 年 3 月 2 日ロンドンにて開催されたイギリス地域の同窓会には、これまでの地域の同窓会では最大の 44 名の参加がありました。開催にあたり咲耶会ロンドン支部長・古川修氏の開催広告記事掲載のご協力もあり多くの方の参加および新規登録がありました。代表幹事のロンドン大学鈴木憲教授にもご協力いただきましたが、本同窓会にてお二人の幹事の他、新しい幹事の方々も選出されました。

欧州同窓会は会員専用の HP も本センター HP 内に開設し、引き続き会員登録を募集しております。在欧州の本学関係者の皆様の登録をお待ちしておりますと共に同窓会事務局でもあるセンターとしましても可能な限り欧州同窓会活動をサポートしていきたいと考えています。

バンコク教育研究センターの周りには

バンコク教育研究センター長 関 達 治

早いもので、バンコク教育研究センター（以下「センター」という。）も設立から7年目を迎え、バンコクにある日本の大学の現地事務所でも古参になりつつあります。今日は、センターの廻りを散歩してみたいと思います。

センターの入居するサムミットタワーは、在タイ日本大使館領事部が以前に置かれていた関係で、タイ人もよく知っています。このビルの低層棟10階にある貸事務所“T.Y.W. オフィスセンター”の一角に本学センターはあります。約40㎡のこじんまりした部屋に、現在は事務職員が欠員となっているため、センター長と現地スタッフの2名が勤務しています。この7月には、立命館アジア太平洋大学のバンコク事務所が近くにオープンしました。現地スタッフ2名が常勤し、サイアム大学がバックアップしています。

このフロアから高層棟にでますと、そこは日本の事務所街です。まず、フロアの3分の2を占められると思われる国際交流基金日本文化センターがあり、多数の蔵書を抱える図書館、日本語教育を行う教室と事務所があります。図書館には、最近の日本の若者文化に対応した図書、ビデオなども置かれており、多くのタイ人が出入りしています。また、嘉数勝美前所長は本学文学部の卒業生でしたが、新しく赴



本学センター入口

任された福田和弘所長も旧大阪外国語大学の卒業生で本学と何かの縁があるのではないかと思います。所員の中に本学の卒業



JASSO, と JSPS の共同事務所の看板

生がいたこともあり、3月には国際交流基金の主催による平田オリザ教授と石黒教授によるロボット演劇の公演がチュラロンコン大学で三日間開催され、すべての講演が満席であったのは記憶に新しいところです。

その隣には、日本学生支援機構（JASSO）タイ事務所と日本学術振興会（JSPS）バンコク研究連絡センターの共同オフィスが新設されました。これは昨年度の政府事業仕分けにより統合が求められ、本年4月に開設されたものです。それぞれの事務所と、面談室、会議室がある機能的な事務所です。JASSO 事務所には山本剛所長と2名の現地スタッフが、JSPS センターには山下邦明センター長、田辺寛明副センター長と現地スタッフ1名が常駐しています。この共同事務所の隣には日本政府観光局（JNTO）バンコク事務所があります。

このように多くの日本関係機関・企業が入居しているオフィスビルに本学センターはあります。オフィスはバンコクにバスを除くと二つしかない公共交通機関 BTS（高架電車）と MRS（地下鉄）が交差する至便なところに位置していますので、是非、ご遠慮なくお立ち寄りください。

また、バンコクには、京都大学、東京工業大学、東京農工大学、大阪教育大学、青山学院大学、東海大学、関西大学、早稲田大学など11大学が事務職員もしくは現地スタッフを配置している事務所を、東京大学、九州大学、東京医科大学など10大学が常駐職員のいない事務所を設置しており、タイを教育研究の重要拠点と考えているようです。



え!? “おにぎり”の自動販売機? (ビルロビーで)



国際交流基金図書館

アデレード大学

The University of Adelaide

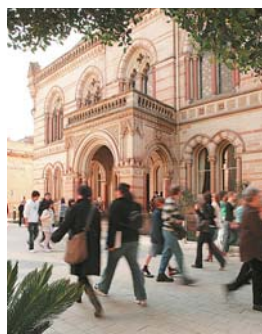


アデレードへの旅

飛行機がアデレード空港に近づいてくると、広々とした庭園とプール、碁盤上に広がる赤い屋根の建物が見えてきます。この南オーストラリア州の都市に高い建物はなく、あなたは乾燥した大地の上を飛んで小さな街へと降り立ちます。人口は100万人超、街は南側に海岸を抱き、北側は素晴らしいアデレードヒルズに囲まれています。アデレードの街は小さくて利便性が高く、数多くの素敵なレストラン、歴史的建造物、博物館やギャラリーがあります。また名高い葡萄園が市街地に広がり、ワイン通を楽しませてくれます。

歴史あるアデレード大学

アデレード大学には長い歴史があります。1874年の創立はオーストラリアで3番目に古く、オーストラリアで初めて自然科学と音楽学の学位を設けました。特に大学教育におけるジェンダー平等の点においては先端的でオーストラリアで最初の、そして世界でも2番目に早く1885年に女性に学位を与えた大学なのです。以来5名のノーベル賞受賞者を輩出しました。前オーストラリア大統領もアデレード大学の卒業生です。



バー・スミス図書館
(ノーステラスキャンパス)



ミッチェル・ビルディング (ノース・テラスキャンパス)

アデレード大学の現在

アデレード大学は現在、4つのキャンパスから構成されています。優れた研究大学としての長い歴史から、アデレード大学はオースト



グッドマン・クレセント前を歩く学生達

ラリアを代表するトップ研究大学のグループ、「オーストラリア8大学」の1つになっています。

アデレード大学基本情報

- ・学生数：25,000名
- ・教職員数：3159名
- ・卒業生数：130,000名
- ・在学生の出身国：99カ国

緊密かつ有益な関係性

アデレード大学は総合大学で医学から人文学まで幅広い質の高い教育・研究を行っています。2006年から2011年までは人文・社会科学研究科と大阪大学人間科学研究科が部局間協定を結んでいました。この協定を通して阪大、アデレード大の学生双方の交換留学が盛んに行われ、素晴らしい成功をおさめていたため、昨年大学間協定へと拡大することとなりました。

阪大生にとってアデレード大学は高いレベルの教育を受けることが出来る場所であり、街も楽しく、安全かつ快適に過ごせる学生寮もあります。教員、スタッフはいつも暖かいホスピタリティを持って学生達をケアしてくれており、とても感謝しています。私達はアデレード大学へ留学する学生、同大から阪大に留学してくる学生が今後さらに増えていくことを期待しています。

コンタクトパーソン：人間科学研究科・YAMAMOTO BEVERLEY ANNE・准教授

編集後記

7月上旬に「発見」された「ヒッグス粒子」。科学者だけでなく一般市民の方からも、世界中で大きな注目を集めましたね。本号クローズアップでも取り上げていますが、7月21日(土)には理学研究科で一般市民向けの緊急解説会が行われ、私も参加しました。当日は、告知から1週間ほどしか経っていないにもかかわらず、会場には100名を超える市民の方が詰めかけ、理学研究科の花垣和則先生をはじめとする4名の研究者の話に耳を傾けていました。

このような大学が行う一般市民向けのイベントは初めて参加しましたが、市民の方々の関心がとても高く、質疑応答も専門的な内容が多く見受けられました。私自身も、普段触れることが少ない先生方の研究を知る機会になり、大変有意義でした。本学では、他にも多くの公開講座や一般市民向けイベントを開催しています。大学公式ウェブページや21世紀懐徳堂のページでも情報を掲載していますので、みなさんもぜひ参加してみてください。(加賀)

男子ハンドボール部

祝1部昇格！さらなる成長へ！



こんにちは、ハンドボール部です！

ご存知の方は少ないかと思われますが、私たちは先日、春季リーグでの入れ替え戦にて立命館大学に勝利し、目標であった関西リーグ1部昇格を果たしました。阪大の1部昇格は27年ぶりで、6部で構成される関西リーグでの1部昇格は、推薦での選手獲得をしていない国立大学にとって大変な偉業です。しかし当然ながらその分、これからのリーグは厳しい戦いを強いられます。多くの名門私立を相手に戦えるよう、私たちは日々、密度の高い練習に汗を流しています。

ハンドボールは、正直に言って日本ではマイナーなスポーツであり、野球やサッカーほどプレー人口も多くはありません。ルールもわからないという方も多いでしょうし、本格的な試合を見たことがある方はほとんどいらっしゃらないと思います。ですが決して地味なスポーツではありません。大まかに言えばバスケットとサッカーを組み合わせたようなルールで、スピード、パワー、テクニックのすべてが必要とされる“アツい”スポーツです。

先にも述べたように、1部での戦いは決して甘いものではありません。これまでは自分たちの武器だと思っていた

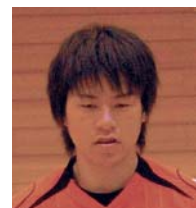
ことも弱点になり、強豪校だと思っていた自分たちが弱小校になってしまう世界です。秋季リーグももちろんながら、夏は西日本インカレや全国七大学総合体育大会（七大会）といった大きな大会も控えています。どの大会においても阪大の名に恥じぬ戦いをするべく、日々努力しておりますので、活躍を楽しみにしておいてください。これからの私たちを応援よろしくお願いします。



主将 井上 卓也（工3回生）

〈コメント〉

1部昇格という結果に満足することなく、さらなる高みを目指して練習に励んでいます。阪大の吹田体育館で試合が行われることもあるので、その際は是非足を運んでみてください。



練習場所 & 時間：

月曜日 清明寮トレーニングルーム 17:00 ～ 19:00
火曜日 豊中第一体育館 17:20 ～ 20:00
木曜日 吹田体育館 17:20 ～ 20:00
土曜日 吹田体育館 9:30 ～ 13:00

部 員：選手：4回生4名、3回生5名、2回生7名、1回生14名

マネージャー：2回生3名、1回生2名

連絡先：主務 森 達哉 handaihand@gmail.com

HP：http://univofosakahandball.web.fc2.com/

大阪府教育委員会と連携協定を締結、 進学指導特色校と覚書を交わす

7月11日(水)、大阪大学と大阪府教育委員会は、大学および高等学校における教育の課題に関し、連携して必要な対応を行うことにより教育および研究の充実、発展に資することを目的として、大阪大学と大阪府教育委員会との連携に関する協定を締結しました。また同時に、大阪府教育委員会が指定する10校の進学指導特色校(グローバル・リーダーズハイスクール(GLHS))と、大阪大学の教育および研究活動の理解を深め、かつ、GLHSにおける教育の充実発展に資することを目的とした覚書を交わしました。



握手を交わす平野総長(左)と中西教育長(右)

協定締結式は大阪大学中之島センターで行われ、大阪大学からは平野俊夫総長のほか理事・副学長、総長補佐等が出席し、大阪府教育委員会からは中西正人教育長のほか教育監、教育振興室長、高等学校課(課長、参事、教務グループ首席指導主事)が、GLHSからは各校の校長が出席のもと、平野総長と中西教育長が協定書にサインし、今後の連携・協力について確認を行いました。

なお、今後の具体的な取り組みについては、三者で相談・調整のうえ進めていくこととしています。



平野総長、中西教育長と進学指導特色校10校の校長

(学生部学務課)

「大阪大学未来基金」へのご寄付のお願い



大阪大学では、学術研究や教育・人材育成を目的とする「大阪大学未来基金」を設けております。大阪大学の未来を支えるため、企業、団体、個人のみなさまからのご支援をお願い申し上げます。
【個人の皆さまへ】

ご寄付の方法：ゆうちょ銀行・金融機関からのお振込、クレジットカードでのお引き落としをご利用いただけます。また、ゆうちょ銀行・金融機関からは毎年1回定額を自動引き落としでご利用いただくことができます。(詳しくは、未来基金のホームページ(www.miraikikin.osaka-u.ac.jp))をご覧ください。基金事務室(下記)までお問合せをお願いいたします。

税法上の優遇措置：所得税控除等を受けることができます。(詳しくは、同ホームページでご確認いただけます。)

お問い合わせ先：大阪大学 基金事務室

TEL: 06-6879-8327 FAX: 06-6879-4337 email: kikin@office.osaka-u.ac.jp

※阪大 NOW は次号からデザイン・コンテンツのリニューアルを予定しています。

阪大NOW No.133 2012 8月号

2012年8月20日発行

22世紀に輝く

www.osaka-u.ac.jp

編集 大阪大学広報・社会学連携オフィス

発行 大阪大学広報・社会学連携オフィス広報課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1
TEL: 06(6879)7017 FAX: 06(6879)7156

「阪大 NOW」へのご意見、お問い合わせにつきましては、下記までお寄せ下さい。

E-mail: ki-kousyagaku-kouhou@office.osaka-u.ac.jp

